

令和 7 年度 事業報告

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

目 次

本事業報告書の位置付け等について	1
令和7年度 事業報告（総括）	3
重点事業	4
事業報告の内容	6

1 法人運営事業	6
2 調査・研究事業	6
3 研修事業	8
4 企画・広報事業	9
5 区社協推進事業	9
6 助成事業	10
7 部会・委員会事業	10
8 福祉基金運営事業	14
9 資金貸付事業	14
10 共同募金事業	14
11 受託事業	15
12 ボランティア活動振興センター事業	19
13 あんしんセンター事業	20
14 地域生活支援SOSかわさき事業	22
15 総合研修センター管理経営事業	23
16 居宅介護等事業	24
17 老人いこいの家管理経営事業	25
18 老人福祉センター管理経営事業	25
19 公益事業	25
20 民生委員児童委員活動及び 川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働	27
21 災害活動関連事業	27
22 その他	28

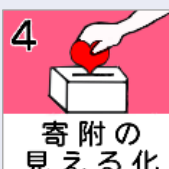
川崎市川崎区社会福祉協議会	30
川崎市幸区社会福祉協議会	36
川崎市中原区社会福祉協議会	44
川崎市高津区社会福祉協議会	50
川崎市宮前区社会福祉協議会	59
川崎市多摩区社会福祉協議会	66
川崎市麻生区社会福祉協議会	73

＜本事業報告書の位置付け等について＞

本会は第6期地域福祉活動計画（計画期間：令和6年度～令和8年度）において、計画期間における取組の方針と方向性を定め、これに基づく具体的な取組を年度ごとに事業計画として策定しています。

本事業報告書は、そうした年度ごとの事業計画に基づく取組の報告です。

また、取組方針ごとに設定したアイコンを各事業に付すことで、どのような方向性で進めているのかを可視化しています。これにより、中長期の地域福祉活動計画と単年度の事業計画との関連性を明確にしています。

取組方針	アイコン
1 「ふくし」の心が育つ取組 地域のみんなの暮らしや地域の理解を促進すると共に、地域に住む一人ひとりの立場に立って、互いに尊重し支え合い、地域における課題を他人事ではなく自分事として捉える「ふくし」の心が育つ取組を推進し、幼少期から「ふくし」の心が育まれる環境をつくります。	 1 心が育つ 取組
2 多様化する地域課題・生活課題への対応 要支援世帯の早期発見及び早期支援のためのアウトリーチの強化により、日頃からの地域における顔の見える関係づくりを通して、横断的な相談対応体制を構築します。	 2 地域生活課題 への対応
3 「伝わる」広報啓発 本会の活動・取組や、地域の様々な団体・活動の情報発信を通じ「ふくし」への理解を広め、川崎市の地域福祉を推進します。 また現在デジタル社会の形成が進められているなか、情報から取り残される人がいないよう支援をするとともに、より多くの人へ情報が届くよう、ICTの活用も含め様々な手法を取り入れ「伝わる」広報啓発に取り組めます。	 3 「伝わる」 広報・啓発
4 活用の見える化～寄附文化の醸成～ 地域福祉を推進する参加方法である寄附文化の醸成に向け、活用の見える化に力を入れ、理解を促進すると共に寄附や募金がしやすい環境や仕組みづくりを行います。 持続可能な地域福祉推進に必要な取組や事業、地域福祉活動団体や住民の自発的・主体的な活動の財源確保に向け、住民、企業などに対し募金や寄附の呼びかけを行います。	 4 寄附の 見える化
5 場づくり・機会づくり 「やりがい」「いきがい」「健康づくり」のきっかけにつながる住民同士の交流、住民の主体的な活動への参加促進を通じ、自助、互助の取組振興、介護や社会的孤立などの地域生活課題の予防や解消、把握などにもつながる場づくりや、機会づくりを行います。	 5 場・機会 づくり

取 組 方 針	アイコン
6 住民主体の活動の振興 ボランティアなど地域福祉活動の担い手づくりや育成、住民の主体的な活動者や団体に 対し活動しやすい環境整備や交流の機会づくり、様々な情報提供や活動促進に向けた 支援を行います。	 住民主体の 活動振興
7 福祉人材の発掘・育成・支援 様々な手法により福祉の仕事の魅力を発信し、地域福祉を支える専門的人材の発掘 及び育成を行うとともに、専門性や技能の向上に向けた取組を推進します。 また、福祉の担い手が誇りと働きがいを持って福祉に関わることができるよう、継続的に支 援します。	 人材発掘 育成・支援
8 多種多様な社会資源同士の連携強化と協働 福祉分野以外の社会資源同士の連携強化、制度や既存の仕組みでは解決できない 課題や地域のニーズなどに協働で対応できるよう、分野別の組織、専門領域などの枠を 超えたネットワークづくりを推進します。	 連携強化と 協働
9 災害に強い地域づくり 多発する大規模な自然災害をはじめ、様々な災害時の対応を見据え、住民、関係団 体・機関や地域資源の把握と連携強化、地域住民同士のつながりづくりを平時より推進し ます。 また災害発生後は、被災された地域、住民への生活再建に必要な支援が円滑に届くよ う、ICTの活用や平時から構築する社協のネットワークの活用を含めた支援体制の構築を進 めます。	 災害に強い 地域づくり
10 持続可能な地域福祉の推進に向けた調査研究の強化 地域福祉活動の活性化や効果的な実施に加えて、将来にわたり地域福祉活動を推進 していくため、地域課題や地域ニーズの把握、解決に向けた調査研究を強化します。	 調査研究の 強化

令和7年度 事業報告

物価高騰の長期化や人件費の上昇等により、市民生活や地域経済を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。特に、食料品やエネルギー価格の上昇は、低所得世帯のみならず、子育て世帯や高齢者世帯など幅広い層へ影響を及ぼしており、地域における生活課題は複雑化・深刻化しています。

令和7年の出生数は70万5,089人(速報値)と、10年連続過去最少を更新となり少子化が進む一方、65歳以上の高齢者は3,624万人(高齢化率29.3%)となり、介護・医療サービスの需要増加や社会保障制度の持続性など、福祉を取り巻く状況は厳しさを増しています。

また、単身世帯の増加や雇用の不安定化、地域とのつながりの希薄化などを背景に、これまで家族や地域コミュニティが担ってきた支え合いの機能が弱まり、孤立や社会的孤独、制度の狭間の問題、複合的課題を抱える世帯の増加など、地域生活課題や福祉ニーズは全世代にわたり複雑化・深刻化しています。今後、団塊の世代が85歳を迎える2040年に向かうにつれ、こうした傾向はさらに強まることが見込まれており、誰もが地域とのつながりや役割を持ちながら、ともに支え合い、自分らしく暮らし続けることのできる地域社会を維持・再構築していくことの重要性が高まっています。また、課題が深刻化する前に地域との接点を持ち続けられるようにするなど、孤立や課題の発生を未然に防ぐ予防的な取組も一層重要となっています。

一方で、少子高齢化の進行状況や地域コミュニティの状況、地域活動の担い手の状況などは地域ごとに異なっており、地域課題も多様化しています。こうした中、全社協「福祉ビジョン2025」においても示されているように、地域住民が主体となりながら、社会福祉法人、企業、関係機関、行政など多様な主体の参画を促し、それぞれの強みを生かした連携・協働を進めるとともに、自らの地域を見つめ、地域の実情や課題に応じた取組を進めていくことが求められています。

川崎市においても同様に、多様な地域特性や住民ニーズに対応しながら、都市部ならではの多様な資源や主体を生かし、地域ごとに異なる課題に応じた支え合いの仕組みを構築していくことが求められており、本会では、地域包括ケアシステムの推進及び地域共生社会の実現に向け、川崎市と包括的支援体制の構築に向けた議論を進めるとともに、日本電気株式会社とのパートナーシップ協定に基づく町内会自治会支援アプリの実証実験など、地域住民、社会福祉法人、企業等の多様な主体と連携しながら地域福祉を推進しています。

また、困窮者支援として、困窮の長期化等の課題を抱える生活福祉資金特例貸付借受人に対し、生活再建支援室に専門の支援員を配置し、訪問や積極的な電話連絡などによるアウトリーチ型の支援を実施しています。様々な事情により生活の立て直しに困難を抱える方に対し、課題の解きほぐしや世帯全体を捉えた支援を行うなど、複合的な課題を抱える世帯への支援に取り組みました。

経営面においては、介護業界を取り巻く状況が厳しい中で、社協が運営する介護事業は黒字経営を維持しました。また、法人全体として職員が働き続けられるような処遇改善を図りつつ、持続可能な法人運営を目指すため、社協組織経営検討会議を開催し、将来を見据えた組織運営や経営基盤強化に向けて令和8年度には集中的な議論を行い、一定の方向性を示す予定です。

以下は、本年度特に重点的に実施した事業です。

◆ 重点事業 ◆



1 地域包括ケアシステムの一層の推進

本会の第6期地域福祉活動計画の基本理念である「みんなで支えあい ともに安心して その人らしく暮らせる 川崎のまちづくり～ともに目指す地域共生社会の実現～」の実現、さらに地域包括ケアシステムの推進に向けて、本会職員と行政職員の意見交換を行いながら、地域課題の解決に向けた連携強化を図りました。また、本会のネットワークを活用し地域住民、関係機関、企業のコーディネートを行い、住民主体による生活課題解決への取組を支援しました。



2 組織経営基盤の強化

介護保険等事業について、人件費率の適正化、収益率の向上を進め、黒字経営を達成しました。

食糧支援を通じた地域ネットワークづくり、新規建設大型マンション向けに地域組織化による地域課題解決に向けた住民連携支援を実施し、川崎市の評価も得られ、対象地域拡大にともなう受託金増加や事業の継続受託につなげました。

法人全体での経営基盤の強化と経営健全化の取組として、経営状況についての共有を実施し、今後の持続的な社協運営に必要な新規事業について検討を開始し、「地域福祉推進パートナーシップ事業」の令和8年4月事業化について、また地域活性化支援アプリ「まちくるみ」の継続検討について理事会にて合意を得ました。

中長期的な経営基盤の安定化と持続可能な組織経営の実現を目指し、将来の収支予測に基づく経営戦略の策定や経営資源の最適化を協議する「組織経営検討会議」を令和8年4月に設置することについて、理事会にて合意を得ました。



3 生活困窮者への支援

生活困窮の状況が継続している特例貸付借受人等に対し、関係機関と連携しながらフォローアップ支援を実施しました。償還猶予期間中の借受人への支援として7,314件の対応を行い、未応答借受人に対しても748件の働きかけを実施しました。

また、訪問や電話連絡等によるアウトリーチを通じて生活状況の把握に努めるとともに、意見書作成を794件行い、必要な制度利用につなげました。

さらに、食糧支援や就労支援、法律相談等の各種支援につなぐとともに、相談管理システム（kintone）を活用した情報共有を行い、継続的な見守りと支援を実施しました。

食糧支援については、企業や関係団体等から10,742点の食糧提供を受け、延べ10,300点の食糧支援を212回実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響による生活苦が継続する中、物価高騰等も重なり、食糧の受入数・提供数ともに昨年度を上回る状況となりました。

相談者に対して食糧を提供することで、一時的な生活不安の軽減につなげるとともに、その後の相談支援や制度利用、関係機関へのつなぎなど、継続的な支援を行いました。

関係機関と連携しながら、食糧支援や各種相談支援を通じて、生活困窮者に対する支援を実施しました。



4 想定される災害に備えた地域防災力の向上

今年度は、幸区を会場として実施された「川崎市総合防災訓練」において、地域住民と連携した実践的な災害ボランティアセンター（災害ＶＣ）運営訓練を行いました。本訓練は、事前に実施した「運営者研修」にて災害ＶＣの役割を深く学んだ住民の方々の実践の場として位置づけ、当日は行政・社協職員２３名に加え、幸区住民１５名と研修修了者の方１２名が参加しました。訓練では、受付からオリエンテーション、マッチングに至る一連の運営フローをロールプレイ形式で体験し、有事の際に住民と職員が円滑に協働できる即応体制を検証・強化しました。また、各区を横断する「災害ボランティア担当者会議」を定期開催し、市内の現状共有と連携強化に努めるなど、川崎市全体で支え合う防災体制の構築を推進しました。

事業報告の内容



1 法人運営事業【287,826千円】

【サービス区分事業活動支出 284,297千円】

【サービス区分施設整備等支出 2,358千円】

【共同募金配分金 1,171千円】

(1) 三役会、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

- ア 三役会の開催 6回（6月6日、10月1日、10月10日、12月18日、1月28日、3月3日）
- イ 理事会の開催 6回（6月11日、6月27日、11月10日、11月18日、12月25日、3月11日）
- ウ 評議員会の開催 4回（6月27日、12月10日、1月29日、3月25日）
- エ 評議員選任・解任委員会の開催 2回（6月20日、1月19日）

(2) 監事会の開催、会計監査人監査の実施

- ア 監事会の開催 2回（5月28日、10月2日）
- イ 会計監査人（明神監査法人）による監査の実施
- ウ 会計監査人による監査報告の実施
- エ 会計監査人による監査計画の説明（10月2日）

(3) 会員の増強 令和7年度新規入会会員

- ア 正会員 1（第11種1団体）
- イ 協賛会員 2

	R7実績	R6実績
正会員数	499	502
協賛会員数	19	17

(4) 苦情解決の実施と推進

- ア 苦情受付件数 1件

2 調査・研究事業【64,811千円】

【サービス区分事業活動支出 64,707千円】

【共同募金配分金 104千円】



(1) 組織経営基盤強化に向けた取組

- ① 組織経営検討会議準備会の開催（2月24日、3月31日）
- ② 地域福祉推進パートナーシップ事業構築に向けた検討
- ア 調査
 - （ア）企業等への聞き取り調査（78回）
- イ 説明会
 - （ア）職員向け（3月18日）
 - （イ）三役・顧問向け（1月28日）

(2) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進

- ① 第6期地域福祉活動推進計画の推進
 - 理事会において令和7年度進捗状況について報告（3月11日）
- ② 区社協地域課における総合相談（ふくし相談）の統計化
 - 相談件数7区合計 3,750件
- ③ かわさきSDGsパートナーまつりへの参加

来場者（市民・事業者）のSDGsへの関心を高め、イベントの企画・出展等をSDGsパートナーが行うことで、パートナー同士の繋がりや気運の醸成を図ることを目的とした、NECプロボノ倶楽部主催のイベント

（ア） 実施日 11月9日

（イ） 出展内容：災害ボランティアセンターパネル展示、XRゲーム（神奈川工科大学開発）、オレンジリボン・共同募金・まちくるみの啓発

④ こども服の譲渡会への参加

服の循環を通じて、子育て（服の無償譲渡により子育て世帯を支援する）・環境（リユースを促進し脱炭素（CO2削減）に貢献する）・福祉（障がい者就労を創出する）の3つを同時に支える、ゼンドラ株式会社主催のイベント。

（ア） 実施日 10月27日

（イ） 出展内容：共同募金の啓発、社協事業紹介等

⑤ 子どもがつくる町ミニたまゆりへの参加

川崎市にある様々な企業・団体の仕事を子どもたちが体験することで、自分が住んでいるまちについて理解と愛着を育み、川崎市ブランドイメージへの共感を喚起することを目指した、田園調布学園大学主催のイベント

（ア） 実施日 11月29日、11月30日

（イ） 出展内容：こども相談員～まちの困りごとを君が解決！～

⑥ かわさき起業家オーディションへの協賛と参加

企業との繋がりづくりと組織PRを目的に、協賛とオーディションに参加
オーディション実施日：7月18日、9月26日、12月5日、3月6日

（4）民間企業と連携したオンライン健康づくり

（5）高齢化社会における課題解決及びコミュニティ支援に向けた新事業の創設

① 地域活性化支援アプリ「まちくるみ」の開発に向けた検討・実証実験

町内会・自治会の協力によって支えられてきた本会として、「加入率の低下」や「役員の高齢化・負担の増加」といった課題に対応するため、日本電気株式会社（NEC）との協働により、デジタル技術を活用した課題解決を目指し、以下の取り組みを推進した。

令和7年9月末まで中原区において実証実験を実施し、9町内会・自治会および4商店街の協力を得て、参加町内会・自治会による情報交換会や個別町内会・自治会での操作説明会を行い、アプリの基本的な機能性や運用の流れは確認できた。利用者数及び事業運営財源の確保が課題となり、令和8年6月末まで宮前区を加えて実証実験を行うこととなった。

（ア）日本電気株式会社（NEC）との打合せ 35回（随時）

（イ）区町連等での説明等 17回（5月1日、5月13日、5月14日、7月15日、8月13日、11月28日、12月1日、12月2日、12月4日、12月7日、12月8日、12月9日、12月12日、2月18日、3月4日、3月26日、3月28日）

（ウ）町内会・自治会による情報交換会 6回（5月13日、5月17日、8月28日、8月30日、3月24日、3月28日）

（エ）個別町内会・自治会での説明会等 7回（4月16日、4月26日、6月18日、7月24日、9月17日、10月25日、11月1日）

（オ）商店街等での説明会、啓発活動等 14回（7月9日、8月25日、9月12日、12月23日、2月2日、2月5日、3月2日、3月13日、3月16日、3月17日、3月22日、3月27日、3月28日、3月31日）

（カ）役職員への説明会等

㊦評議員・理事・監事等向け 11回（9月12日、10月24日、11月11日、12月15日、12月19日※2回、配信17日間、2月25日、3月6日、3月11日、3月18日、3月24日）

㊧職員向け 7回（7月17日、8月6日、8月21日、12月15日、12月19日

※2回、配信12日間、3月18日)

- (キ) ダウンロード数 821 (アカウント登録数389) ※令和8年3月31日時点
- (ク) 掲載店舗数 343 (うちクーポン数 35) ※令和8年3月31日時点
- (ケ) 情報配信数 345回 ※令和7年4月1日～令和8年3月31日
- (コ) 財源検討(助成金) 三菱財団社会福祉事業助成金に申請
- (サ) 財源検討(協賛金) 募集要項を作成し、広告代理店を選定

② 高齢者見守り・外出促進支援事業「なな日和(元) nanafuku」の開発に向けた検討

「出会い、つながる」「ウェルビーイングの実現」をコンセプトに、福祉や日常生活(支援)関係の制度やサービス、趣味や学びなどいきがいとなる様々な出会い・つながりを提供。また、対話AIとの会話を通じて不安の解消を手伝い、出会い・つながりを提案するアプリケーションの開発

ア 要件定義活動

(ア) 開発業者との定例ミーティング(4月28日、5月7日、5月12日、6月2日、6月9日)

(イ) 開発業者とのレビュー会(4月18日、5月26日、5月29日、7月2日)

(ウ) 開発業者との打合せ(随時※11回)

イ 本開発

(ア) 開発業者との本開発打合せ(随時※29回)

(イ) 実証実験(3月2日～3月15日 協力者17名)

(ウ) 広告代理店との営業戦略会議の開催(9月11日、9月25日、10月7日、10月20日、11月13日、12月22日)

(エ) 説明会

㊦評議員・理事・監事向け(10月24日、12月15日、12月19日※2回、配信17日間)

㊧職員向け(8月6日、12月15日、12月19日※2回、配信12日間)

ウ 調査

(ア) 住民等アンケート調査(262人)

(イ) 企業等への聞き取り調査(206回)

(ウ) 広告代理店への聞き取り調査(19回)

(6) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進に対する取組

包括的支援体制整備モデル事業の取組報告書作成

(7) 情報共有の場

本会における各事業の方針や方向性の共通理解と、事業に関わる意識の共有を図ると同時に、組織が抱える課題の発掘、解決に向けた検討の場として設置

4回(4月25日、8月6日、10月10日、3月18日)

(8) 行政とのパートナーシップ強化に向けた取組

区役所見守り支援センター地域ケア推進課長・係長との協議(6回)

3 研修事業【888千円】

【共同募金配分金 888千円】

(1) 職員研修の実施



	R7実績	R6実績
研修数 (件)	9	10
受講人数 (延べ)	910 (動画視聴含む)	1015 (動画視聴含む)

- ア 新規採用職員研修 4回（4月2日、6月12日、9月17日、12月12日）
- イ 職員基礎研修 2回（9月～10月、1月～2月 メール配信・効果測定）
- ウ 職位に応じた研修 3回（6月18日、10月29日、1月～2月）

（2）各種研修への参加・職員資格取得補助

- ア 全社協、県社協、その他の研修への参加 延べ19名
- イ 職員の資格取得の補助 延べ15名

4 企画・広報事業【10,352千円】

【サービス区分事業活動支出 7,555千円】

【共同募金配分金 2,797千円】



（1）第61回川崎市社会福祉大会の開催

- ア 実行委員会 3回（5月30日、9月17日、10月29日）
- イ 社会福祉大会（10月29日）参加者750名

（2）広報誌「川崎の社会福祉」の発行

- ア 広報誌「川崎の社会福祉」 年4回（608号～611号） 各12,000部発行

（3）広報企画検討委員会の開催

（4月30日、7月15日、10月23日、1月28日）

（4）ホームページの運用と管理

- ア ホームページ
 - （ア）社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 (<https://www.csw-kawasaki.or.jp/>)
 - （イ）川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）(<https://sfc-kawasaki.jp/>)
 - （ウ）かわさき福祉情報サイトふくみみ (<https://k-fukumimi.com/>)
 - （エ）総合研修センター (<https://www.kensyu-c.jp/>)
 - （オ）川崎市福祉人材バンク (<https://kawasaki-jinzaibank.jp/>)
 - （カ）ホームヘルパー採用サイト (<https://kawasakishakyo-kaigo.jp/>)
 - （キ）施設部会 (<https://csw-kawasaki.or.jp/shisetsu/>)
 - （ク）川崎市老人福祉センター (<https://csw-kawasaki.or.jp/rousen/>)
- イ SNS（Facebook、Instagram、LINE、YouTube、X等）
 - （ア）川崎市社会福祉協議会公式Facebook、Instagram、LINE、YouTube、X
 - （イ）川崎市社会福祉協議会（災害情報専用）Facebook、X
 - （ウ）かわさき福祉情報サイトふくみみ Facebook、YouTube
 - （エ）ボランティア活動振興センター Facebook
 - （オ）総合研修センター Facebook、YouTube
 - （カ）福祉人材バンク Facebook、Instagram、YouTube
 - （キ）施設部会 Facebook、Instagram、YouTube、X
 - （ク）老人福祉センター（麻生） YouTube

5 区社協推進事業【310千円】

【サービス区分事業活動支出 132千円】

【共同募金配分金 178千円】



（1）区社協事業との連携・協働

- ア 各部・区社協間のグループウェア活用等による情報提供・情報交換
- イ 地域課長会議 12回
 - （4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、8月14日、9月11日、

10月9日、11月13日、12月11日、1月7日、2月12日、3月12日)
 ウ 経理担当者会議 3回(4月15日、8月5日、12月12日)
 エ ふくし相談担当者会議 4回(7月29日、11月19日、12月23日、3月3日)
 オ 民生委員児童委員協議会担当者会議 1回(4月22日)
 カ 区社協地域課職員研修 9回
 (4月9日、4月16日、7月10日～11日、8月1日、10月31日、11月10日、
 11月17日～18日、12月3日、3月18日)

(2) 地区・区社協役職員等の研修会の開催(地域部会事業)

ア 地区社協役員等研修会 1回(11月11日)
 イ 地区社協運営強化講習会 3回(9月16日、3月6日、3月18日)

6 助成事業 【8, 358千円】

【サービス区分事業活動支出 8, 358千円】

(1) 社会を明るくする運動への協力

第75回川崎市社会を明るくする運動に助成 助成額20,000円

(2) 民間老人いこいの家運営費助成事業

ア 久地第二老人いこいの家に助成 助成額350,000円
 イ 二子老人いこいの家に助成 助成額350,000円

(3) 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業

施設部会を開催し、施設部会及び各協議会の研修事業等に対し助成
 309施設 計 1,934,000円

(4) ふれあい活動支援事業の推進

ア 会食活動に助成 101団体 計 13,817,000円
 イ 配食活動に助成 4団体 計 720,000円
 ウ ミニデイサービス活動に助成 9団体 計 1,840,000円
 エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会(研修会)の開催(11月12日、1月14日)

(5) 法定外緊急援護事業資金の交付(生活困窮者緊急援護資金)

市内福祉事務所による生活困窮者緊急援護資金事業に交付 総額50,000円

(6) 令和7年度わくわく親子フェスタ

県社協「令和7年度わくわく親子フェスタ」に交付 20,000円

(7) 福祉基金による団体等助成

福祉活動団体に助成 20団体 計5,555,158円

(8) 障害者団体等活動助成金

障害者団体等に助成 9団体 計839,700円



7 部会・委員会事業 【8, 427千円】

【サービス区分事業活動支出 6, 431千円】

【共同募金配分金 1, 996千円】



(1) 部会・協議会の開催、交流事業及び研修事業等の実施

ア 地域部会

- (ア) 部会議 3回(7月24日、11月11日、3月24日)
- (イ) 正副部会長会議 3回(5月22日、9月12日、3月11日)
- (ウ) 区社協会長会議 1回(6月27日)
- (エ) 地区社協役員等研修会【再掲】 ⇒5-(2)
- (オ) 地区社協運営強化講習会【再掲】 ⇒5-(2)

イ 法人経営者部会

- (ア) 部会議 1回(6月4日)
- (イ) 企画委員会 2回(4月25日、3月17日)
- (ウ) 法人経営者部会と川崎市との意見交換会(5月26日)
- (エ) 研修会 1回(12月16日)
- (オ) 第65回大都市社会福祉施設協議会(北九州大会)への参加(7月3日)
- (カ) 情報提供の実施

ウ 施設部会

- (ア) 部会議 4回(5月28日、8月26日、12月8日、3月24日)
- (イ) 研修会 1回(2月6日、9月26日)
- (ウ) ふくしの出張講座 8件(15施設)
- (エ) 第65回大都市社会福祉施設協議会(北九州市大会)に向けた協議と参加運営協議会 1回(6月26日)
第65回大都市社会福祉施設協議会(北九州市大会) 1回(7月3日)
- (オ) 行政や学校関係、企業等との協働
- (カ) その他(会員施設へ各種研修会や助成金、制度情報等をメール配信)

エ 保育協議会

- (ア) 総会 1回(5月7日)
- (イ) 代表者委員会 5回(4月8日、6月9日、8月20日、10月14日、1月19日)
- (ウ) 保育研修会 3回(5月7日、6月17日、12月5日)
- (エ) 川崎市内保育士養成校との意見交換会 1回(4月22日)
- (オ) 第52回川崎市保育まつり(対面・YouTube配信)
対面 7日間・10回 参加園数 344園 参加者総数 5,986名(11月6日、11月11日、11月12日、11月18日、11月19日、11月26日、1月27日)
動画配信(再生回数) 142回 市内438園
各区打合せ 7回(9月30日[午前]、9月30日[午前]、10月1日、10月9日、10月10日、10月15日、10月21日)
- (カ) 第43回川崎市保育研究大会 1回(10月31日) 参加者数187名
- (キ) 全国・関東ブロック等保育組織関係参加会議等
 - a 全国保育協議会協議員総会 2回(6月6日、2月27日)
 - b 全国保育組織正副会長会議 1回(12月3日)
 - c 第68回全国保育研究大会 1回(11月20日～11月21日)
 - d 関東ブロック保育協議会会長会 4回(5月30日、9月1日、10月28日、2月12日)
 - e 第65回関東ブロック保育研究大会 1回(7月3日～7月4日)
 - f 関東ブロック保育事業連絡協議会 1回(9月1日)
 - g 関東ブロック保育協議会「次世代リーダー育成研修会」 1回(2月12日)
- (ク) その他(全保協ニュースや関係各種団体の研修会開催情報、制度情報等をメール配信)

オ 老人福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 6回(4月16日、6月18日、8月27日、10月15日、12月17日、2月18日)
- (イ) 正副会長等会議 7回(4月4日、6月5日、8月1日、10月3日、11月4日、

- 12月8日、2月5日)
- (ウ) 災害プロジェクト委員会 5回(6月6日、8月7日、9月4日、11月4日、3月2日)
 情報伝達・物資移送訓練 1回(8月31日)
 横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会災害対策プロジェクトとの意見交換会 1回(3月2日)
 災害に関する研修会 1回(2月2日)
- (エ) 人材プロジェクト委員会 6回(5月21日、7月16日、9月17日、11月19日、1月21日、3月18日)
 人材定着アンケート班会議 1回(11月5日)
 介護の仕事紹介動画班会議 1回(11月13日)
 橘高等学校定時制校内企業説明会 1回(6月20日)
 ハローワーク川崎北介護のしごと入門セミナー 1回(8月26日)
 地元で活躍する企業との交流会 1回(11月26日)
 NECライフキャリア福祉の仕事でセカンドライフ 1回(3月10日)
- (オ) 関東ブロック・首都圏・神奈川県等老人福祉組織関係参加会議等
- a 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会代表者会 4回(4月25日、6月9日、6月12日、11月18日)
 - b 都道府県指定都市老協・デイ協会長会議 1回(11月18日)
 - c 第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会 1回(6月12日～6月13日)
 - d 神奈川県社協老人福祉施設協議会総会 2回(6月26日、3月13日)
 - e 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員会 3回(5月29日、9月25日、2月17日)
 - f 神奈川県社協老人福祉施設協議会研修会 2回(6月26日、3月13日)
 - g 第22回かながわ高齢者福祉研究大会 1回(7月2日)
 実行委員会 4回(4月11日、4月28日、6月17日、8月15日)
 実行委員・係員・審査委員合同説明会 1回(6月17日)
 - h 第23回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会 2回(12月18日、2月17日)
 - i 神奈川県社老人福祉施設協議会課題別部会
 施設運営に関する部会 1回(11月7日)
 人材確保等に関する部会 2回(11月7日、12月10日)
 災害対応に関する部会 1回(1月19日)

カ 障害者福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 4回(5月14日、7月17日、10月7日、2月19日)
- (イ) 正副会長会議 5回(4月25日、7月15日、9月25日、1月9日、3月9日)
- (ウ) 障害福祉施設関係者等研修会 1回(7月11日)
- (エ) 福祉でつながる地元交流会
 対面 7回 参加者389名(10月27日、1月30日、2月3日、2月5日、2月9日、2月16日、3月25日)
 各区打合せ 14回(7月16日、7月28日、8月1日、8月13日、8月14日、8月29日、9月4日、10月16日、1月20日、1月20日、1月21日、1月28日、1月28日、2月4日)

キ 児童・母子福祉施設協議会

- (ア) 正副会長会議 1回(6月30日)
- (イ) 総会・施設長会 4回(5月12日、7月9日、9月29日、1月29日)
- (ウ) 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会
 対面 1回 参加者58名(8月28日)
- (エ) 職員交流会
- a 実行委員会 3回(9月2日、10月21日、12月22日)
 - b 職員交流会
 対面 4回 参加者214名(11月17日、11月26日、12月1日、

12月10日)

(オ) 研究発表会

- a 事前発表会 1回 参加者14名 (2月10日)
- b 研究発表会 1回 参加者98名・36件 (2月24日)

(カ) オレンジリボン運動

- a 実行委員会 4回 (6月16日、9月1日、10月2日、12月15日)
- b ランナー・中継担当役員会議 4回 (6月16日、9月1日、10月2日、12月15日)
- c 啓発担当役員会議 4回 (6月16日、9月1日、10月2日、12月15日)
- d オレンジリボンたすきリレー 1回 (10月19日)
- e 啓発活動
 - ・オリジナルチラシ・ポスターの配布
 - ・オリジナルデザイン缶バッチの配布
 - ・川崎市内スポーツチームを通じての広報
 - ・ホームページ、SNSを活用した広報
 - ・他機関と連携した広報啓発
 - ・感謝状贈呈式

(キ) 勉強会 2回 (6月29日、1月25日)

ク 民生委員児童委員部会

- (ア) 部会議 3回 (5月23日、12月16日、3月26日)
- (イ) 代表者会議 5回 (5月12日、10月6日、12月16日、1月8日、3月2日)
- (ウ) 研修会 新任民生委員児童委員部会研修会 1回 (2月6日)

ケ 保護司部会

- (ア) 部会議 1回 (5月19日)
- (イ) 代表者会議 3回 (4月25日、8月27日、3月19日)
- (ウ) 研修会 保護司部会研修会 1回 (12月9日)
千葉刑務所視察 (保護司23名、行政職員2名)

コ 障害者団体部会

- (ア) 正副部会長会議 1回 (4月30日)
- (イ) 団体部会 4回 (5月27日、8月5日、11月25日、2月10日)
- (ウ) 障害者団体リーダー研修 2回 (10月24日、2月24日)

サ ボランティア団体部会

- (ア) 部会議 4回 (5月14日、10月7日、12月2日、2月16日)
- (イ) 研修会 (2月16日) シェアリングスペース見学 「くるみのおうち」参加者7名
(3月13日) ボランティア基礎研修「はじめての一步」参加者15名

(2) 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

(3) 障害者の日キャンペーン事業

- ア 障害者週間街頭キャンペーン事前準備 11月25日
- イ かわさきFM出演 キャンペーン広報 1回 11月18日
- ウ 障害者週間啓発用ポスター・パネル掲示
 - (ア) JR南武線主要5駅構内 11月21日～12月12日
 - (イ) 総合福祉センター内 12月1日～12月9日
- エ 障害者週間街頭キャンペーン 12月6日
川崎駅・武蔵溝ノ口駅、新百合ヶ丘駅で団体紹介リーフレット入りオリジナルデザインティッシュを配布 4,000個

8 福祉基金運営事業【1, 815千円】

【寄附・利息等収入 1, 815千円】

(1) 福祉基金の運営

福祉基金運営委員会 2回(11月14日、3月10日)

(2) 令和7年度福祉基金状況

- ア 寄付金額総額 200,000円 (1件)
 (令和6年度 200,000円 (1件))
 イ 年度末基金残高 328,217,011円
 (令和6年度 331,643,887円)

(3) 福祉基金による団体等助成【再掲】 ⇒6-(7)



9 資金貸付事業【2, 945千円】

【サービス区分事業活動支出 2, 945千円】

(1) 社会福祉事業振興資金の償還業務(貸付は平成27年度に終了)

償還状況(臨時費2件 計1,968,900円 償還率100%)

(2) 川崎市社会福祉法人経営改善支援事業

- ア 経営改善相談 17件
 イ 経営健全化計画の作成支援 作成件数なし
 ウ 社会福祉施設運営費の融資 貸付件数なし
 エ 社会福祉法人経営改善支援事業通信の発行 年4回
 オ 社会福祉法人会計実務担当者向け研修会の実施
 3回(7月18日、10月21日、2月13日) 参加者延べ103名



10 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)への協力

	R7	R6
一般募金全市実績額(円)	72,235,451	76,896,103
年末たすけあい募金全市実績額(円)	45,855,883	49,249,908



(2) 共同募金配分金事業

【共同募金配分金 9, 216千円】

- ア 法人運営事業 【1, 171千円】
 イ 調査研究事業 【104千円】
 ウ 研修事業 【888千円】
 エ 企画・広報事業 【2, 798千円】
 オ 区社協推進事業 【178千円】
 カ 部会・委員会事業 【1, 997千円】
 キ 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働 【801千円】
 ク その他、地域福祉の推進のための事業 【1, 279千円】
 (ア) 児童福祉施設訪問事業
 (イ) 高齢者福祉施設等訪問事業
 (ウ) 障害者団体等活動助成事業



1 1 受託事業【165, 165千円】

(1) 福祉パル受託事業（各区1箇所 計7箇所）

【サービス区分事業活動支出 19, 388千円】

ア 地域福祉活動の拠点施設である市内7区の福祉パルの管理運営を川崎市から受託

(ア) 活動拠点の管理運営による、地域福祉活動やボランティア活動の推進・支援

a 研修室 年間利用数 3, 410件（全市）

b ボランティアコーナー 1, 982件（全市）

(イ) 備品の刷新や修繕等に関する、川崎市・区社協との連絡調整

(2) 福祉人材バンク事業

【サービス区分事業活動支出 47, 262千円】

ア 福祉の仕事の相談と求人票の閲覧、紹介

	R7実績	R6実績
就職件数（件）	27	33

(ア) 年間有効求人延べ数 5, 939件

(イ) 年間有効求職延べ人数 572件

(ウ) 福祉の仕事に関する相談件数 2, 957件

(エ) 就職件数 27件（高齢14、障害9、保育4）

イ 福祉のお仕事就職相談会の開催

・夏の就職相談会 in 川崎（8月22日）エポックなかはら 39事業者参加

	R7実績	R6実績
来場者数（人）	152	46 ※民間業者開催の就職博に出展 人材バンクのブースの来場者数

延べ面談数80件 就労数6名（福祉1名、保育5名）

・冬の就職相談会 in 川崎（2月21日）エポックなかはら 40事業者参加
（前年は保育のお仕事就職相談会として実施）

	R7実績	R6実績
来場者数（人）	172	100

延べ面談数242件 就労数2名 選考中4名

・ミニ就職相談会（ハローワーク川崎、ハローワーク川崎北と共催）
計7回（令和6年度は12回）

	R7実績	R6実績※
就職数（人）	7	16

ハローワーク川崎：5月16日、7月11日、9月12日、11月14日、
1月16日、3月13日 計6回

	R7実績	R6実績
来場者数（人）	101	113
着席相談（件）	151	153

ハローワーク川崎北：12月16日 1回（前年6回）

	R7実績	R6実績※
来場者数（人）	15	106
着席相談（件）	17	125

ウ 福祉人材確保のための研修会の開催

	R7実績	R6実績
各種研修会等の開催（回）	26	17
参加者数（延べ人数）	596	348

- (ア) 医療研修（福祉職・市民向け） ※「医療技術再確認研修」「医療研修」を統合
計2回 52名参加 ハイブリッド開催（前年 計4回 71名参加）
- (イ) 地域連携★総合交流学習会 in 川崎市立井田病院 計2回 9名参加 会場開催（前年
計2回 13名参加）
- (ウ) 福祉職のための出張講座 計20回 425名参加（前年 計5回 122名参加）
※依頼に応じて実施。依頼受付24件の内、中止や対応不可4件あり。
- (エ) 採用担当者研修 計2回 110名参加（前年 計2回 80名参加）
- エ 福祉人材確保・定着事業
- (ア) 潜在労働層への働きかけ（地域イベント）
- ・プラザ祭り（川崎市さいわい健康福祉プラザ※幸区民祭と同日開催）
10月18日（土） 缶バッジ作り118名、高齢者疑似体験37名、妊婦体験24名
計179名参加 求人情報紙100セットを配布
 - ・等々力まつり（特別養護老人ホーム等々力）
11月8日（土） 缶バッジ作り85名、近隣住民に向けた同施設の求人情報50セッ
トを配布
 - ・福祉用具展示・相談会（川崎市総合研修センター）
3月7日（土） 福祉のお仕事相談、缶バッジ作り30名参加
- (イ) 学校連携
- ・川崎市立橘高校定時制高校
6月20日 生徒60名に福祉の仕事紹介を実施
 - ・西生田中学校
11月18日 生徒5名に対し、福祉人材確保の課題について講義
- (ウ) NECライフキャリアサービスとの連携【重点取組】
- ミドル・シニア層への戦略的アプローチとして、セミナー開催や個別相談の導線づく
りを実施。
- ・連携に向けた協議・調整： 計4回
 - ・相談員向け施設見学： 1回（2名参加、特養等々力にて実施）
 - ・相談員向け説明会： 1回（25名参加、NEC玉川事業所にて開催）
 - ・社員向け勉強会（オンライン）： 1回（74名参加）
 - ・個別相談対応： 2件（セカンドキャリア層の社員への個別紹介・相談）
 - ・求人情報の提供・掲載： NEC社内ポータルサイト「NEXT STAGE」への市内施設
求人の掲載（新規試行）
- (エ) 「企業から福祉へ！応援プロジェクト」（神奈川県域プロジェクト）【新規】
- 神奈川県が主催するシニア労働力移転促進事業に協力し、企業等から福祉分野への転
職を促進するため、県内各圏域での説明会やフォーラムにてNECライフキャリアサ
ービスとの連携を事例として発表、登壇を行った。
- 説明会
- ・横須賀会場（11/15）： 2名参加
 - ・川崎会場（12/5）： 9名参加（会場：川崎市総合自治会館）
 - ・厚木会場（12/21）： 7名参加
 - ・平塚会場（11/29）： 動画提供により協力
- 「企業から福祉へ！応援プロジェクト」フォーラム
- 2月28日（横浜市社会福祉センター）18名参加
- オ 関係機関及び福祉関係の学校等との連携
- (ア) かながわ福祉人材センターが主催する福祉のしごとフェア
（就職相談会・就職ガイダンス）3回（6月、10月、2月）
- (イ) かながわ福祉人材センター運営委員会 2回
- (ウ) ハローワーク川崎・ハローワーク川崎北との連携
求職者向け福祉の仕事説明会 川崎6回、川崎北1回
- (エ) 川崎市こども未来局との連携
養成校における保育士修学資金の説明

- ・洗足学園こども短期大学 2回（1，2年生 各1回）
 - ・田園調布学園大学 4回（1，2，3，4年生 各1回）
- カ こころの健康相談室「ふぉーえむ」の実施、及び、メンタルヘルス研修の開催（臨床心理士による専門相談、講義）
- （ア）メンタルヘルス相談（月4回 月曜日または金曜日）【増回】
 月約2回から約4回に増回。法人の複数名相談、出張相談等にも柔軟に対応。
 延べ66枠利用（内、市内保育施設への訪問相談 2か所）（前年度 59枠利用）
 ※令和7年度より相談内容の統計にハラスメントを加え、相談者57名のうち、「ハラスメントあり」と回答した人が31名、54.4%がハラスメントを含む相談であった。
- （イ）メンタルヘルス研修会 計5回 延べ91名参加
 （前年度 計2回3日 延べ26名参加）
- （ウ）広報紙「ふぉーえむのご案内」の発行 5回
- キ カスタマーハラスメント相談窓口事業【新規事業】
- （ア）専用相談窓口の設置・運営： 相談累計 42件。
 ・株式会社ウィ・キャンへの再委託により、専門の相談員が電話およびメールにて、利用者等からのカスハラやクレーム対応の助言を実施。
 ・弁護士による法律相談（月2件枠）を整備し、法的判断を要する案件への支援体制を構築
- （イ）対策研修の開催： 計2回、延べ140名参加。
 ・第1回（10月8日） 対面34名、アーカイブ申込78名
 ・第2回（3月5日） 対面28名
- ク 川崎市福祉人材バンク運営委員会の開催 2回（7月16日、3月23日）
 ※ハイブリッド開催
- ケ 広報
- （ア）求人情報紙の発行 毎月1回発行
- （イ）人材バンク ホームページ <https://kawasaki-jinzaibank.jp/>
 同サイト内に新たに「セカンドキャリア特集ページ」作成し、異業種からの転職者のインタビュー記事、動画を公開
- （ウ）SNS
 ・Facebook 不定期配信による情報提供
 ・Instagram 毎週木曜午後に定期配信を実施。フォロワー数：562件（3月末現在）
- （エ）動画広報
 ・既存の福祉の仕事の魅力動画に加え、新たにセカンドキャリア層を対象とした動画（高齢、障害、保育の計3本）を制作
 ・YouTube でのフルバージョン公開、アゼリアビジョンや河川情報掲示板、中原図書館サイネージ等でショートバージョンを放映
 ・外部サイト連携
 楽天グループの特設ポータルサイトにて「介護に関わる仕事の魅力」を12月9日に配信
- （オ）メールによる情報提供、利用案内等の発信（求職登録者・求人事業者向け送信）
- （カ）人材バンクリーフレットの配布
- （キ）介護冊子配布
- （ク）広報誌「川崎の社会福祉」
- （ケ）
- 各事業との連携
- ・総合福祉センター指定管理事業研修（年間27回 約1033人参加）での広報
 - ・総合研修センター研修開催時に、こころの健康相談室「ふぉーえむ」の広報
 - ・高津第三地区社会福祉協議会児童福祉部会「星空観察会」（11月18日）参加の児童保護者等約178名にリーフレット・求人情報紙配布

・子供服の譲渡会（3/28・29 アトレ川崎）にてリーフレット・求人情報紙 400 部配布
コ 調査研究事業

（ア）福祉・保育施設における人材実態・採用活動調査

2 回（夏・冬）実施した「福祉のお仕事就職相談会 in 川崎」の参加法人を対象（夏：39 法人、冬：40 法人）に、採用手法やコスト、職員構成、外国人人材の雇用状況等に関する実態調査を年 2 回実施。

- ・採用手法の多様化とコストの増大：福祉・保育の両分野において、公的な紹介ルート（ハローワーク等）に加え、民間の求人サイトや人材紹介会社を積極的に併用している実態が浮き彫りとなった。年間の採用予算が 1,000 万円以上に達する法人は、福祉分野で 20～28%（夏：5 法人、冬：7 法人）、保育分野でも約 13～14%（夏：2 法人、冬：2 法人）存在しており、人材確保にかかる多額の費用負担が深刻な経営課題となっている。
- ・外国人人材の活用状況：福祉分野（高齢・障害）では回答法人の 60～76%（夏：19 法人、冬：15 法人）が雇用しており、特定技能や技能実習、留学生など、多様な在留資格での受け入れが定着している。一方、保育分野での雇用は約 27～36%（夏：5 法人、冬：4 法人）に留まっており、分野間での活用状況に差が見られた。
- ・職員構成の現状：平均年齢は、福祉分野では「40 歳～44 歳」がボリュームゾーンであり、保育分野では、「夏」の最多層が「35 歳～39 歳」であったのに対し、「冬」では「45 歳以上」が最多層となり、回答法人の平均年齢の上昇傾向が見られた。平均勤続年数は、両分野・両時期ともに「5 年～9 年」が最多であった。

（3）生活福祉資金貸付事業

【サービス区分事業活動支出 77,306 千円】

ア 生活福祉資金貸付事業

（ア）生活福祉資金貸付事業担当者会議の開催 3 回（5 月 29 日、9 月 4 日、2 月 24 日）

（イ）貸付相談員、貸付担当者向け研修の企画、実施 1 回（2 月 24 日）

（ウ）貸付相談員、貸付担当者の支援

貸付相談員および各区貸付担当者からの相談に対し、制度運用や個別ケースへの対応について、電話等により随時助言・支援を行った

イ コロナ特例貸付借受人のフォローアップ支援

（ア）償還猶予期間中の借受人の支援

令和 7 年度特例貸付フォローアップ支援件数 7,314 件

令和 7 年度意見書作成件数 794 件

（イ）未応答借受人の支援 748 件

（ウ）償還免除借受人の支援

個別相談に応じて適宜対応

（エ）生活再建支援室の広報、相談会の実施 6 回（4 月 16 日、5 月 14 日（同日 2 回実施）
5 月 23 日、5 月 27 日、9 月 12 日）

（オ）関係機関との連携、調整 連携 3 回 見学 2 回 研修 8 回

（カ）事例検討会の実施 実績なし

（キ）区社協との連携

特例貸付フォローアップ対象者が本則貸付の相談・利用に至る場合や、区社協への電話・来所時において区社協と情報共有を図りながら連携して対応した。

（ク）食糧支援かわさきを活用した支援 49 回 延べ 1,955 点の食糧を配布

（ケ）借受人データの整理、分析 1,921 件

（コ）相談管理システムを活用した情報共有

川崎市内社協間における特例貸付借受人に関する情報については、相談管理システム（kintone）を活用し共有した。また、神奈川県社協から受領した名簿を基に、借受人情報を随時更新した。

（サ）地域への生活困窮の理解促進 6 回（再掲）

- (シ) 調査研究 2回 (11月27・28日、3月18日)
- (ス) 全国、関東ブロック、県及び指定都市で開催される関係会議への参加・協力 7回
(5月15・16日、6月2日、8月1日、9月30日、10月3日、10月23・24日、10月28日)

(4) 川崎市地域見守り体制強化事業

【サービス区分事業活動支出 21, 209千円】

- ア 会議の出席 22回
- イ 川崎区での活動日のサポート支援 26回
- ウ 幸区での季節のイベント等への参加や支援 8回
- エ 川崎区・幸区で実施 ⇒川崎区社協・幸区社協該当項目に掲載

12 ボランティア活動振興センター事業【10, 836千円】

【サービス区分事業活動支出 10, 836千円】



(1) 運営委員会の開催

- ア 運営委員会 2回 (10月27日、2月26日)

(2) 相談・情報提供事業及び調査・研究

- ア ボランティアコーディネーター業務
 - (ア) ボランティア募集の依頼 69件 (令和6年度 47件)
 - (イ) ボランティア活動希望への相談・情報提供 49件 (令和6年度 56件)
 - (ウ) ボランティアによる支援 0件 (令和6年度 0件)
- イ ボランティアグループ等の把握及び情報提供
 - (ア) ボランティア体験紹介冊子「ボラ・ナビ2026」の発行 1, 500部
(公益財団法人かわさき市民活動センターとの共同発行)
- ウ ボランティア担当者会議の開催 6回
- エ 電話相談実務者研修
 - 基礎編 (11月18日) 開催 参加者25名
 - 応用編 (3月3日) 開催 参加者19名

(3) 広報・啓発

- ア ウェブサイト並びに紙媒体等におけるボランティア関連情報の提供
 - (ア) ホームページの管理
 - a 本会ホームページ 若い世代の巻き込み方、新しい活動者の獲得事例、SNSの活用
 - b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
 - (イ) ボランティア関連情報冊子の発行
 - a 川崎市内ボランティア団体・個人活動紹介カード集の発行 60団体
 - b 「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」の発行 3, 000部
- イ ボランティア交流室の貸出 538件

(4) ボランティア育成支援

- ア ボランティアコーディネーター研修の開催
 - (ア) 「聴く力を養う～電話相談の専門性～」※相談機能強化のための研修会へ参加
(11月18日) 参加者4名 (各区ボランティア担当者が参加)
 - (イ) 「NPO法人ホッとスペース中原についての講話、見学」
(2月6日) 参加者6名
- イ ボランティア・市民活動団体のためのパワーアップセミナーの開催
 - (ア) 「(稗原ゆ～ず連絡会の実践から学ぶ) 地域連携のこれから」
(9月27日) 参加者18名

(イ)「ツールが増えた今こそ広報の基本を！」

(2月13日) 参加者14名

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育推進会議の開催 4回(5月14日、7月11日、11月4日、3月5日)

イ 福祉教育研修の開催(市内小学校・中学校福祉教育担当教諭向け)(8月8日)

参加者 12名

ウ 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2025」の開催
7月20日～8月21日 参加者259名

(6) 高齢者ふれあい活動支援事業【再掲】 ⇒6-(4)

(7) 災害ボランティア関連

ア 川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練(幸区社協との共催)
(8月31日)

イ 事前説明会 「災害ボランティアセンターの運営について」(8月22日)

ウ 川崎市総合防災訓練・避難所開設プレ訓練参加(7月6日)

エ 災害ボランティアセンター担当者会議の開催 2回(8月22日)(1月21日)

オ その他

幸区社会福祉協議会主催災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座への講師協力
(6月21日・7月5日・2月28日)

(8) 市内ボランティア活動推進機関との連絡調整及びネットワークの推進

各区社協や公益財団法人かわさき市民活動センターなど関係機関(中間支援組織)との連携を図り、全市におけるボランティア活動の推進、ネットワーク体制の構築を進めた。

(9) 企業・関係団体における助成金情報の提供・支援

市内外の企業・関係団体からの助成金情報をホームページ、SNSや紙媒体において広く周知した。

(10) 全国・関東ブロック・県・市外関係機関との各種連絡調整、各種研修会等への参加

関係機関が主催するボランティア関連の会議や研修会に参加。

13 あんしんセンター事業【170,893千円】

【サービス区分事業活動支出 170,468千円】

【サービス区分施設整備等支出 425千円】



(1) 権利擁護にかかわる相談(日常生活自立支援事業及び川崎市成年後見支援センター事業)

相談件数 11,763件(初回相談 1,320件、継続相談 10,443件)

(※令和6年度相談件数 10,294件/初回相談件1,164件、継続相談9,130件)

(2) 日常生活自立支援事業

ア 相談件数

相談件数 8,609件(初回相談 300件、継続相談 8,309件)

イ サービス契約者数(令和7年度末の継続利用者数)

	R7実績	R6実績
書類預かりサービス利用者数(人)	39	35
金銭管理サービス利用者数(人)	163	164

(3) 契約能力判定審査会の運営

- ア ケース検討会議の開催 23回
 - (ア) 新規利用申込件数 合計 57件
 - (イ) 継続利用者の処遇 合計 20件
- イ 契約能力判定審査会の開催 6回(5月15日、7月10日、9月11日、11月13日、1月15日、3月12日)
 - (ア) 諮問件数 合計 15件
 - (イ) 報告件数 合計 103件

(4) 業務監督審査会の運営

- ア 業務監督審査会の開催 6回(5月15日、7月10日、9月11日、11月13日、1月15日、3月12日)
 - (ア) 諮問件数 合計 5件
 - (イ) 報告件数 合計 201件

(5) 専門員及び生活支援員等研修の実施

- ア 生活支援員研修 2回(12月2日、12月5日、1月26日、2月3日)
受講者 延べ72名
- イ 専門員研修
 - (ア) 新任研修 3回(4月9日、8月5日、3月3日) 受講者 延べ9名
 - (イ) 現任研修 2回(11月11日、2月24日) 受講者 延べ16名

(6) 成年後見事業(法人後見)

- ア 法人後見新規受任件数 5件 (※令和6年度 0件)
- イ 令和7年度末の法人後見受任継続件数 33件 (※令和6年度末 32件)

(7) 成年後見制度連絡会の開催

- ア 成年後見制度連絡会の開催 2回(5月29日、11月27日)

(8) 川崎市成年後見支援センターの運営

- ア 広報事業
 - (ア) 市民向けリーフレット及び成年後見制度パンフレットの配布
 - (イ) 成年後見制度シンポジウムの開催(2月14日) 参加者 38名
 - (ウ) 市民向け研修会 2回(9月5日、3月10日) 受講者 延べ71名
 - (エ) 関係機関向け研修 2回(7月17日、11月6日) 受講者 延べ66名
 - (オ) 成年後見制度に関する出張講座
36回派遣 延べ865名参加
- イ 相談事業
 - (ア) 職員による相談件数 3,154件(初回相談1,020件、継続相談2,134件)
 - (イ) 法律・福祉の専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士)による専門相談 51件
 - (ウ) 支援チームへの法律・福祉の専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士)派遣 5件
 - (エ) 支援チーム等への申立支援 新規支援数 144件
- ウ 成年後見制度利用促進事業
 - (ア) 申立書書き方講座(7月17日) 受講者33名
 - (イ) 後見人候補者選定支援 「専門職後見人等のご案内」チラシの配布
 - (ウ) 市民後見人の養成と支援
 - a 市民後見人推進委員会 3回(7月3日、9月18日、2月19日)
 - b 市民後見人受任調整会議 3回(4月24日、12月11日、3月5日)
 - c 市民後見人養成研修実践研修の実施 修了者13名
 - d 市民後見人フォローアップ研修 2回(6月10日、1月28日)

- e 市民後見人への活動支援 適宜（電話、メール、来所等による支援）
- f 市民後見人受任状況 受任依頼 4件、受任 2件、終了 2件
令和8年3月末現在16名受任中
- エ 後見人支援事業
 - （ア）親族後見人向け研修 2回（6月25日・12月4日） 受講者3名
- オ その他
 - （ア）川崎市成年後見制度利用促進協議会 2回（9月3日、3月13日）

（9）終活支援事業

- ア 終活に関する普及啓発
 - （ア）終活に関する相談対応
 - （イ）パンフレット・チラシの配布
 - （ウ）エンディングノートの配布
 - （エ）終活に関するセミナー等の実施
 - a 全市を対象に終活に関するセミナー 2回
 - b 各区の老人福祉センターにおいてエンディングノート等終活に関するセミナー 7回
 - （オ）事業説明・出張講座等 21回実施（延べ579名参加）
- イ 契約に基づく死後事務等の個別支援
 - （ア）契約件数 42件
 - （イ）解約件数 8件
 - （ウ）相談件数 282件
 - （エ）訪問または面接件数 446件

（10）その他

- ア 権利擁護事業の普及啓発
 - （ア）川崎市あんしんセンターパンフレットの配布（随時）
 - （イ）市民及び福祉関係者等研修への権利擁護事業講師派遣
- イ 「日常生活自立支援事業」実施状況調査
 - かながわ福祉サービス運営適正化委員会運営監視委員会による調査
 - （ア）区実施状況調査 麻生区 9月24日
 - （イ）実施状況ヒアリング 2月9日
- ウ 区あんしんセンター事業実施調査
 - （ア）アンケート調査（12月～1月に実施）
 - （イ）現地調査7区実施（1区は前年度未実施分）
- エ 権利擁護事業実施にかかわる、区社会福祉協議会への支援
 - （ア）あんしんセンター連絡会議の実施 11回（4月21日、5月19日、6月16日、7月22日、8月18日、9月30日、10月20日、11月17日、12月15日、1月19日、3月12日）
 - （イ）日常生活自立支援事業担当者会議の実施 12回（5月2日、5月27日、6月24日、7月29日、8月26日、9月25日、10月28日、11月26日、12月23日、1月20日、2月24日、3月24日）
 - （ウ）相談に対する助言

14 地域生活支援SOSかわさき事業【474千円】

【サービス区分事業活動支出 474千円】



	R7実績	R6実績
参加施設数	127施設	94施設
連携ネットワーク会議	6回	5回

(1) 連携ネットワーク事業の開催

ア ネットワーク会議の開催 6回

(川崎区：2月5日、中原区：2月10日、高津区：1月30日、宮前区：2月16日、
多摩区：2月3日、麻生区：2月9日)

イ 相談対応

(2) 地域向けに「公益的取組」の広報啓発

本会公式SNS、ホームページ等を通じ取組発信

(3) 食糧支援かわさきの実施

ア 食糧支援かわさき実績（令和8年3月31日現在）

(ア) 食糧の提供（企業・施設・市民等） 約44,000品（令和2年度からの累計）

(イ) 食糧支援実績 約4,370世帯（令和2年度からの累計）

(ウ) 日用品の提供 約850品（令和2年度からの累計）

(エ) 日用品支援実績 約570世帯（令和2年度からの累計）

(オ) 食糧保管拠点 11カ所

(4) 地域見守り体制強化事業への協力

SOSかわさき事業会員に呼びかけ、食料運搬や寄付協力支援を実施

15 総合研修センター管理経営事業【92,880千円】

【サービス区分事業活動支出 92,880千円】



(1) 人材開発・養成研修事業

ア 福祉職員向けテーマ別研修 49研修 受講者延べ 1,390名

イ 新人・新任介護職員向け実践研修 修了者 17名

ウ 介護職員実務者研修（HAPPY&SMILEとの共催） 修了者 12名

エ 介護福祉士国家試験直前対策講座 受講者 10名

オ 認知症介護に関する研修

基礎研修 5コース 修了者 100名

実践者研修 2コース 修了者 41名

実践リーダー研修 1コース 修了者 11名

カ 相談支援従事者に関する研修（初任者研修、現任研修等）7コース 修了者263名

キ 医療的ケア児等支援者養成研修 修了者 52名

ク 強度行動障害支援者養成研修

基礎研修 5コース 修了者 248名

実践研修 2コース 修了者 105名

ケ 行動援護従業者養成研修 休止 ※強度行動障害者養成研修を増回して実施

コ 同行援護従業者養成研修

一般課程 3コース 修了者 29名

応用研修 1コース 修了者 12名

サ 重度訪問介護従業者養成研修 修了者 12名

シ 地域包括支援センター職員向け研修

新任職員向け 3研修、現任職員向け 5研修 修了者 304名

介護予防ケアマネジメント研修 修了者 37名

(2) 介護普及啓発事業

ア 福祉用具の展示及び「福祉用具展示・相談会」の開催

(ア) 福祉用具・介護用品の常設展示 43品目

- (イ) 福祉用具展示・相談会 協力企業 15社 来場者数 200名
- イ 福祉関係図書・DVD等福祉啓発教材貸出事業の実施
 図書及び資料等所有数及び貸出数
- | | | | |
|---------|--------|------|------|
| (ア) 図書 | 1,960冊 | 貸出実績 | 270冊 |
| (イ) DVD | 196本 | 貸出実績 | 16本 |

(3) その他

- ア 令和8年度の本格実施に向けたサテライト型研修の試験開催
 福祉パルたま研修室を利用して2回開催 サテライト会場の参加者14名
- イ 学生に向けた研修聴講の促進
 田園調布学園大学1年生に対して福祉マインド実践講座内で研修案内を行う
- ウ 新たな受講者層の獲得に向けた新たな案内先の開拓
 川崎市内特例子会社あてに研修案内を送付
- エ 地域共生社会創造研修の実施
 「地域共生」をテーマにした研修。対象は通常の福祉職員だけでなく、興味のある方は誰でも参加できるオープン講座として実施
- オ 社会参加・就労に向けた機会の提供
 若者サポートステーションから就労体験の一環として、3名の方を臨時職員として採用し、社会性や就職に必要なスキルを身につける機会を提供

16 居宅介護等事業【739,673千円】

【サービス区分事業活動支出 735,811千円】

【サービス区分施設設備等支出 3,862千円】



(1) 介護保険法に基づく訪問介護及び第1号訪問事業の実施

利用者数 延べ 9,306人/年
 サービス提供時間 75,233時間/年
 (令和6年度 71,973時間/年)

(2) 障害者総合支援法に基づく居宅介護事業及び地域生活支援事業の実施

利用者数 延べ 2,789人/年
 サービス提供時間 25,654時間/年
 (令和6年度 26,188時間/年)

(3) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業の実施

ケアプランの作成 延べ14,291件/年
 (令和6年度 14,179件/年)

(4) 自由契約事業（おたっしゅサポート）の実施

利用者数 延べ 1,318人/年
 サービス提供時間 2,995時間/年
 (令和6年度 3,148時間/年)

(5) 福祉住宅等訪問協力員派遣事業の受託実施

市内28館の福祉住宅・シルバーハウジングに訪問協力員の派遣を行った。

(6) 各種研修の実施

- ア サービス提供責任者研修 2回
- イ 介護支援専門員研修 3回
- ウ かわさき暮らしサポーター養成研修 6回（5月22日、7月24日、9月16日、11

月12日、1月22日、3月12日)
エ ヘルパー現任研修（各事業所において実施）

17 老人いこいの家管理経営事業【289,540千円】

【サービス区分事業活動支出 286,689千円】

【サービス区分施設設備等支出 2,851千円】

「老人いこいの家」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。
（市内48箇所）

（1）年間利用者数 434,476名（前年度 409,810名）

（2）会議

ア 老人いこいの家調整担当者会議 3回（6月25日、10月22日、3月17日）



18 老人福祉センター管理経営事業【305,101千円】

【サービス区分事業活動支出 304,411千円】

【サービス区分施設設備等支出 690千円】

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。（市内7箇所）

（1）年間利用者数 174,225名

（2）会議 14回

ア 所長会議 12回（4月24日、5月29日、6月26日、7月31日、8月28日、9月25日、10月30日、11月27日、12月24日、1月29日、2月26日、3月29日）

イ 事務担当者会議 1回（9月4日）

ウ 講座・行事担当者会議 1回（1月28日）



19 公益事業

（1）川崎市総合福祉センター事業【202,011千円】

【サービス区分事業活動支出 199,953千円】

【サービス区分施設設備等支出 2,058千円】

ア 施設・設備の利用提供事業

（ア）ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室の提供

a 年間利用件数 3,488件（令和6年度 3,332件）

b 利用人数 361,307名（令和6年度 335,878名）

イ 地域福祉情報バンク事業

（ア）総合相談事業（ふくし相談・専門相談）

a ふくし相談事業 361件（令和6年度 370件）

b 情報バンク 216件（令和6年度 276件）

c 専門相談 83件（令和6年度 89件）

d 総合相談支援システムの円滑な運用

（イ）地域福祉活動に関する情報の収集・管理・配信（かわさき福祉情報サイトふくみみ）

a ボランティア・市民活動団体実態調査 約460団体を対象に実施

b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ

c 地域福祉情報バンク通信の発行（季刊 各7,000部）

d かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック



- e 情報提供検索用パソコンの利用の貸出
 - f ふくみみパンフレット配布 約900部
 - g 情報バンク広報活動強化のため、広報啓発グッズの作成と窓口等配布
- (ウ) 社会福祉専門書・DVDの貸出及び資料の整備・蔵書データベースの運用
- a 図書貸出 1965件 DVD貸出 138件
 - b コピー機貸出(一般利用可能) 59人
 - c 車いす貸出 9件(26台)
 - d 高齢者疑似体験セット貸出 16件(57セット)
 - e 妊婦体験セット・抱き人形貸出 3件(17セット)
 - f 視聴覚障害者体験セット貸出 6件(32セット)
 - g ボッチャボールセット 3件(5セット)

	R7実績	R6実績
新規貸出登録者数(人)	53	71
図書・DVD貸出件数(件)	2,103	2,100

ウ 地域包括ケア推進を目的に、地域住民を対象とした研修事業

- (ア) 地域包括ケア推進研修 7テーマ 8回実施 受講者延べ280名
- (イ) 地域課題研修 7テーマ10回実施 受講者延べ505名
- (ウ) 地域活動促進研修 7テーマ 9回実施 受講者延べ248名

	R7実績	R6実績
研修件数(件)	27	27
受講者数(人)	1033	673

(2) 川崎市高齢者外出支援乗車事業【429, 667千円】

【サービス区分事業活動支出 429, 667千円】

ア 販売実績 延べ130, 292件

	年度	R7実績	R6実績
年間延べ	窓口	バス事業者、郵便局	バス事業者、郵便局
交付枚数	枚数(枚)	130,292	128,157

イ 事業者会議 1回(2月3日)

(3) 地域包括支援センター事業(大師中央・溝口・登戸)【130, 645千円】

【サービス区分事業活動支出 130, 645千円】

ア 総合相談支援業務

総相談件数

- (ア) 大師中央 1, 417件
- (イ) 溝口 732件
- (ウ) 登戸 1, 763件

イ 権利擁護業務

権利擁護関連相談件数

- (ア) 大師中央 64件
- (イ) 溝口 36件
- (ウ) 登戸 107件

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

地域ケア会議の開催

- (ア) 大師中央 圏域会議2回(11/11、3/10)
個別ケア会議7回(10/16、10/28、12/5、12/10、12/12、12/17、1/20)
- (イ) 溝口 圏域会議4回(8/28、9/18、3/6、3/13)
- (ウ) 登戸 圏域会議2回(2/24、2/24)
個別ケア会議12回(5/21、7/7、7/28、9/1、10/30、12/25、1/16、

2/4、2/13、2/26、2/27、3/24)

エ 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防プラン作成数

- (ア) 大師中央 2, 180件 (外部委託分 790件含む)
(イ) 溝口 2, 612件 (外部委託分 845件含む)
(ウ) 登戸 3, 469件 (外部委託分 836件含む)

オ 川崎市高齢者福祉サービスの利用調整

介護保険サービス外の相談件数

- (ア) 大師中央 616件
(イ) 溝口 264件
(ウ) 登戸 892件

(4) 川崎市内の保育士人材確保を目的とした保育士修学資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 57, 820千円】

- | | | | | |
|---------|--------|-----|-------|---------------|
| ア 修学資金 | 貸付決定人数 | 34名 | 貸付決定額 | 11, 350, 000円 |
| イ 入学準備金 | 貸付決定人数 | 23名 | 貸付決定額 | 910, 000円 |
| ウ 就職準備金 | 貸付決定人数 | 25名 | 貸付決定額 | 1, 800, 000円 |
| エ 生活費加算 | 貸付決定人数 | 0名 | 貸付決定額 | 0円 |
- ・ 養成校説明会： 田園調布学園大学、洗足こども短期大学にて計6回実施。

(5) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 9, 300千円】

- | | | | | |
|---------|--------|----|-------|--------------|
| ア 入学準備金 | 貸付決定人数 | 3名 | 貸付決定額 | 1, 500, 000円 |
| イ 就職準備金 | 貸付決定人数 | 4名 | 貸付決定額 | 800, 000円 |

(6) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭（住宅支援 資金）貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 15, 828千円】

- | | | | | |
|----------|--------|-----|-------|--------------|
| ア 住宅支援資金 | 貸付決定人数 | 12名 | 貸付決定額 | 7, 602, 192円 |
|----------|--------|-----|-------|--------------|
- (上限7万円への改正対応)

20 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働【801千円】

【共同募金配分金 801千円】

(1) 川崎市民生委員児童委員協議会との協働及び助成事業の実施

21 災害活動関連事業

(1) 災害活動基金の管理

- | | |
|----------------------------|----------------|
| ア 寄付額 | 0円 |
| イ 支出額（災害ボランティアセンター設置に係る経費） | 0円 |
| ウ 令和7年度末残高 | 33, 490, 779円 |
| （令和6年度末残高 | 33, 490, 779円） |



(2) 事業継続計画と職員行動マニュアルの定期的な検証

各部署に設置し、4月に見直しを行った（定期実施）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

職員用災害時備蓄（８０名×３日分以上）

（４）災害発生時、川崎市との協定に基づく帰宅困難者の一時的な受け入れ

- ア 帰宅困難者の一時的な受け入れ 無し
- イ 帰宅困難者対策用備蓄物資の保管

２２ その他

（１）児童福祉施設訪問事業の実施

- ア 児童福祉施設訪問 １回（８月１９日）
 - （ア）訪問施設４か所
 - ・川崎こども心理ケアセンターかなで
 - ・川崎市中央療育センター
 - ・新日本学園
 - ・しゃんぐりらベビーホーム
- イ プレゼント贈呈
訪問施設以外（５か所）は直接配送

（２）高齢者福祉施設等訪問事業の実施

- ア 高齢者福祉施設等訪問 １回（９月１５日）
 - （ア）訪問施設４か所（南部・中部・北部の代表施設）
 - ・大師の里
 - ・風光、青田風、風知草
 - （イ）市内高齢者個人宅１か所（麻生区）
- イ 祝品贈呈
訪問施設以外（６１か所）は川崎市の祝品とあわせて直接配送

（３）常務理事と職員との意見交換会

- ア 職員との意見交換会 １回（川崎区：８月２２日 幸区：８月７日 中原区：８月２９日 多摩区：８月２６日）

（４）災害ボランティア活動事業（能登半島地震復興支援 川崎市青少年復興応援隊）の実施

- ア 現地ボランティア活動
令和７年７月２８日～３０日（参加者：高校生２８名、大学生１１名、随行者協職員４名）
被災地の珠洲市内の視察
講話
 - ・「珠洲市社協の被災者支援と被災者の生活課題変遷について」
 - ・「令和６年能登半島地震、発災当時から現在まで」現地若者支援団体との協働による能登の子どもたちへの遊びイベント開催
- イ 能登復興講演会
日 時：令和７年９月１２日（金）１７：００～２０：００
会 場：川崎市総合福祉センターエポックなかはら３階ホール
市民来場者１３２名、参加学生９名（発表者３名、義援金呼びかけ等６名）
実施内容
 - ・講演会
「令和６年度能登半島地震における避難所運営の課題とその後」
講師：珠洲市立正院公民館 館長 小町康夫氏
 - ・現地活動報告
パネルディスカッション

パネリスト 高校生3名、
一般社団法人SSK理事／全国遊び場ネットワーク所属 藤代國忠氏
ファシリテーター：日本女子大学 黒岩亮子)

・同時開催

能登応援チャリティ物産販売（石川県人会）

チャリティーコンサート公演（奈月れい、元ロスインディオス三崎一平）

川崎市川崎区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆



1 地区社協活動の支援・援助

地域支え合い活動助成金を交付し、地区社会福祉協議会の活動を支援しました。「つながりを育て安心して暮らせるまちかわさき区」を基本理念とし、地区社協が主体となり、地域福祉懇談会、テーマ別の研修会、見守り活動、子育てや認知症予防を目的としたサロンなど、それぞれの地域の特性にあわせた独自性のある事業が展開されました。

また令和4年から始まった子どもの食糧支援「みんなのごはん」は、食糧をツールとした地域のつながりの場として、地域活動の一つの柱として定着してきています。

広報誌「ウェーブ」では毎号地区社協の活動紹介のページを作り情報発信に努めました。



2 ふくし相談支援事業

ボランティア相談から生活相談まで、年間を通じて761件の相談を受けました。川崎区の特徴として生活困窮に関する相談が多いことから、関係機関との勉強会や顔合わせ等を積極的に行い、相談者に寄り添い様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へつなぐ等の支援を行いました。



3 現在・未来の地域の人財づくり

地域活動の担い手の不足、高齢化が不安視されて久しいですが、新たな次世代の福祉のまちづくりを担う人材の育成、地域における福祉の理解者を増やすため、小・中学校、地域団体や区内の企業と協働し、福祉教育を進めました。

また気軽にボランティア活動に参加できるよう、災害ボランティア講座や読み聞かせボランティア講座を開催しました。

事業報告の内容

川崎市社会福祉協議会 事業費【92,837千円】

【サービス区分事業活動支出	80,604千円】
【サービス区分施設整備等支出	696千円】
【共同募金配分金	11,537千円】

1 川崎市社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 4回（5月22日、6月5日、9月22日、2月24日）
イ 運営協議会の開催 2回（5月23日、3月2日）



(2) 令和7年度会員及び賛助会員数

	R7実績	R6実績
会員数	148	149
賛助会員数	3,056	3,333

(3) 種別会議

開催なし

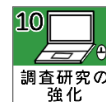
(4) 寄附金品の受け入れ

合計 1,544,597円

2 調査・研究事業

(1) 第6期地域福祉活動計画の進行・管理

第6期地域福祉活動計画に基づき事業を実施し、評価を通し確認をしています。



(2) 福祉ニーズ調査・検討

- ア 地域見守り体制強化事業におけるヒヤリングの実施
イ ふくし相談事業におけるニーズ検討
ウ いこいの家における満足度調査の実施

3 研修事業

(1) 役員研修会の開催

2月10日 テーマ「地域で暮らす外国人の声を聴く」参加35名

(2) 関係機関が開催する研修会への参加



4 企画・広報事業

(1) 令和7年度 福祉まつり・川崎市社会福祉大会の開催

11月8日 参加者延べ711名



(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「ウェーブ」の発行

ア 広報紙「ウェーブ」年3回 121号（39,000部）、122号（39,000部）、

123号(39,000部)発行
イ リーフレット 2,000部発行

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

川崎市社会福祉協議会 ホームページ (<https://www.kawasakiku-shakyo.jp/>)



5 地域福祉活動事業

(1) こども食堂情報交換会のほか、こども食堂を含めたこどもの居場所づくりに関する支援の実施

相談対応 26件

(2) 保育物品の貸出

保育物品の貸出 53件

(3) 地域福祉関連の情報提供・支援

ホームページの運用

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネットの貸出し 11団体

(5) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 608件

(6) 福祉用具の再利用

譲ります 6件、譲ってください 5件、成約 4件

(7) 総合相談(ふくし相談)事業

地域課で対応している総合相談(ふくし相談)統計化 相談件数 761件

(8) 地域見守り体制強化事業

行政の関係機関や地域生活支援SOSかわさき事業と連携し、十分に食事のとれているかが不安な家庭等の子どもに食糧支援を行いました。また、地域で行われているフードパントリーや子ども食堂等の活動に協力しました。

支援世帯数 229世帯

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

区内地区社協への助成 計9,743,760円

(2) 社会を明るくする運動への助成

1件 10,000円

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ふれあい活動団体数 36団体(会食会、配食サービス、ミニデイサービス)

助成総額 5,586,015円



7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会相互の情報交換・連絡調整の支援



(2) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

ア 地区社協会長連絡会 3回（5月22日、9月22日、3月2日）

(3) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末支援金配布 411世帯 計2,055,000円



(2) 障がい者福祉啓発事業

各種事業での啓発活動の実施

(3) 子育て支援事業

子育てグループに助成金配布 8団体 計195,000円

(4) ボランティア・当事者団体への活動助成

ボランティア・当事者団体へ助成金配布 25団体 1,784,000円※返金あり

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 511件、ボランティアコーナー 13件



(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

印刷機 90件、コピー機 63件

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

通常貸付決定件数 58件



11 ボランティア活動振興事業

(1) 川崎市ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 4回（6月2日、8月27日、11月4日、1月28日）



(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 51件

イ ボランティア募集の依頼 20件

(3) ボランティア情報誌「いっば」の発行等、広報活動の実施

広報紙「ウェーブ」へ合併し、紙面の1面として年3回発行

(4) 各種講座・セミナーの開催

- ア 令和7年度夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2025」の開催
選択プログラム体験：7月20日～8月21日
- イ 読み聞かせボランティア基礎講座の開催
(3月5日、3月12日、3月19日、3月26日)
- ウ 災害ボランティア講座(2月28日)

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育に関する相談 34件
- イ 福祉教育情報交流会「福祉教育に地域の方や近隣施設がかかわることの効果」の開催
(2月13日)

(6) ボランティア・市民活動団体・関係機関との連携



12 あんしんセンター事業

区内に在住する認知症高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者等が、地域の中で安心して自立した生活を送ることができるよう、関係機関と連携を図りながら日常生活自立支援事業を実施しました。また、令和3年7月に開設された川崎市成年後見支援センターの相談窓口として、成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行うとともに、地域への広報活動を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 2,505件(初回相談41件、継続相談2,464件)
(※令和6年度相談件数 2,326件/初回相談55件、継続相談2,271件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 351件(初回相談110件、継続相談241件)
(※令和6年度相談件数 320件/初回相談83件、継続相談237件)

13 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

開催数 12回 利用人数 251人

(2) 夜間・休日等施設開放事業

開催数 14回 利用人数 375人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計85,400人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

運営委員会 9回
運営委員長会議 1回(3月13日)



1 4 災害活動関連事業

(1) 川崎区総合防災訓練への参加

1月31日 川崎区総合防災訓練にて普及啓発活動

(2) 災害発生時に必要な物品等の整備

災害備蓄品(水)の購入

(3) 災害時に必要なボランティアの基本的知識・技術を学ぶ講座の開催

災害ボランティア講座(2月28日)



1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募基金会川崎区支会への協力

ア 募金実績 21,339,403円 達成率 71.1%

(2) 川崎区民生委員児童委員協議会

川崎区民児協の事務局運営を行い、研修会や各種会議の開催、広報啓発運動等を実施しました。



1 6 その他

(1) 各部が実施する事業に協力

老人福祉センターとの連携など各部が実施する事業に協力しました。



川崎市幸区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆

1 住民交流活動拠点の円滑な運営

区内3カ所の陽だまりの円滑な運営により、「誰もが顔見知りになれる」交流の場、地域の居場所づくりに取り組みました。

各種講座、季節のイベントを開催し多くの方に知ってもらうきっかけとしました。

塚越の陽だまりは、15周年を迎え記念式典を実施しました。



2 福祉教育への取り組み強化

福祉を理解し、身近に感じることで地域福祉に目を向ける機会が増えるよう、地域ぐるみの福祉を推進しました。

学校で行う福祉教育の場において、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、地域包括支援センターなど地域の団体に協力してもらい、地域への興味関心に繋がられるように努めました。



3 ふくし相談事業の実施体制の整備

いこいの家、陽だまりなどの拠点においても、「ふくし相談窓口」の看板を設置し、あらゆる生活上の相談を受け、社協の持つネットワークと関連付けて解決につながるよう対応しました。



4 安定財源確保と啓発強化

住民に社協活動を理解してもらうための広報啓発活動に積極的に取り組みました。賛助会費募集のチラシを刷新、使い道をわかりやすく広報することに力を入れました。

若い世代への情報発信を目的として、区社協公式SNSを開設しました。



5 災害ボランティアセンター

大規模災害に備え地域住民を対象にした「災害ボランティアセンター運営者養成講座」を開催し、受講者と共に川崎市総合防災訓練等に参加し、災害ボランティアセンター設置訓練やパネル展示などの啓発を行いました。



事業報告の内容

幸区社会福祉協議会 事業費【79,380千円】

【サービス区分事業活動支出	65,978千円】
【サービス区分施設整備等支出	430千円】
【共同募金配分金	12,972千円】

1 幸区社会福祉協議会運営事業



(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（6月2日、8月28日、2月26日）
- イ 運営協議会の開催 1回（書面開催 3月）

(2) 各種委員会の開催

- ア 機関紙編集委員会 4回（6月18日、9月12日、12月19日、2月19日）
- イ 機関紙編集小委員会 5回（4月16日、7月16日、10月15日、1月21日、3月24日）
- ウ ボランティア運営委員会 2回（6月9日、2月9日）※2月は書面開催
- エ 年末たすけあい配分委員会 2回（6月26日、12月12日）

(3) 自主財源の確保

寄附金品の受入れ寄附金 延19件 3,521,650円／寄附品 延2件

(4) 会員の増強、賛助会員・協賛会員の募集

令和7年度会員

	R7実績	R6実績
正会員数	106	106
賛助会員数	4,047	4,260

(5) 社会福祉士相談援助実習の受け入れ

社会福祉士相談援助実習 1名

2 調査・研究事業



(1) 「第6期地域福祉活動計画」に沿った取り組みの実施

第6期地域福祉計画に基づき事業を実施した。

(2) 次期地域福祉活動計画策定に向けた各部・区社協間での調整

(3) 安定した事業運営のための財源確保及び組織体制の検討

令和4年度に検討した積算方法に基づき助成金等の配分を行った。

緊急時対応積立金設置要綱及び運営資金積立金設置要綱を整備し、適正に積み立てを行い、非常時等の事業運営に備えた。

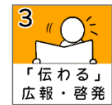
3 研修事業



(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

地区社協役員等を対象とした研修会の開催 1回（3月30日）

4 企画・広報事業



- (1) 川崎市幸区社会福祉大会の開催
区内で社会福祉に功労のあった方へ表彰状・感謝状の贈呈（9月24日）
- (2) 広報紙「幸区の社会福祉」の発行
機関紙「幸区の社会福祉」 年4回、各43,000部発行
回覧または全戸配付
- (3) 「幸区社協通信」の発行
情報紙「幸区社協通信」の発行 月1回、550部発行
- (4) 区社協ホームページでの情報提供の充実強化
ホームページでの情報発信
幸区社会福祉協議会 ホームページ (<http://www.saiwaiku-shakyo.jp/>)
区社協公式SNS（Instagram、LINE）での情報発信を開始

5 地域福祉活動事業



- (1) 地区社協との連携
地区社協の定例会等に地域担当職員が出席し情報の共有を図った。また、活動への協力、支援を行った。
- (2) 子育て支援事業や会食会等への支援
地区社協等が実施している事業に対し共同募金を財源とした支援を実施。
- (3) 地区社協連絡会議の開催
地区社協会長連絡会 1回（4月10日）
- (4) 住民活動交流拠点（陽だまり3か所）の運営
小倉の駅舎陽だまり、塚越の陽だまり、河原町の陽だまりの3か所について、各運営委員会と協力し運営。
- (5) シニア向けいきがづくり・介護予防事業の実施
河原町の陽だまりにおいて、委託を受け事業を実施。
スマホ・PC相談会24回、スマホの使い方講座12回、居場所づくり事業27回
- (6) 住民主体による要支援者等支援事業の実施
河原町の陽だまり、小倉の駅舎陽だまりにおいて介護予防に資する居場所の提供、講座の開催などを実施。
- (7) 総合相談（ふくし相談）事業の体制整備
福祉パルのほか、老人いきいの家や陽だまり等の拠点において、利用者からの相談の聞き取りと関係機関等の情報を提供。
ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化
相談件数 578件
- (8) 相談を通じた住民の福祉ニーズの把握
年間総相談件数 1404件

(9) 車いすの貸出事業の実施

区民への車いす無料貸出 269件
学校への貸出 5件

(10) 高齢者疑似体験グッズ等の福祉用具の貸し出し

ア 学校への貸出 12件
イ その他地域団体への貸出 4件

(11) 福祉用具のリサイクルに関する取り組み

ア 譲りたい要望 2件
イ 譲ってほしい要望 2件
ウ 譲渡成立件数 0件

(12) 障害者関係等団体との協働

幸区精神保健福祉連絡会に参画し、メンタルヘルス講座を2度開催

(13) 区内障害者施設関係者との情報交換の実施

川崎市幸区社会福祉大会、プラザ祭りの活動紹介についての打合せ及び情報交換を実施

(14) 子育て支援に関する啓発事業

ア 広報紙等による子育て支援に関する情報提供に協力
イ 幸区こども総合支援ネットワーク会議に参画しこども情報ネットさいわいの編集、発行に協力(55号、56号、57号を発行)

(15) 「みんなで子育てフェアさいわい」への参加・協力

ア 部会出席 3回(7月22日、9月22日、12月23日)
イ みんなで子育てフェアさいわい
3月15日 幸区社会福祉協議会の展示ブースを設けた

(16) プラザ祭りの開催

さいわい健康福祉プラザにおいて、老人福祉センター、さいわい訪問介護支援事業所、子ども文化センター、幸区民生委員児童委員協議会、幸区保護司会と協働でプラザ祭りを実施。共催団体の作品や活動を紹介する展示や、工作や各種体験ができるコーナー等を設置し開催した。(10月18日)

(17) 区内の生活困窮者支援の一環として食料や日用品の配布を実施

食料支援かわさきの拠点として 33件対応
学生向けの食料支援を実施(窓口での対応 5件)

(18) 幸区ボッチャ大会の開催

区内の関係団体と共催し、第4回幸区ボッチャ大会を開催。6歳から94歳までの96チーム288人が参加(10月26日、11月30日)

(19) さいわい縁むす日の受託、実施

日ごろ生活している地域において人と人とのつながりを作るため、地域への関心が薄い層に対して地域活動に参加しやすいきっかけを創出することを目的に実施。

(20) 地域見守り体制強化事業の受託、実施

高校生世代の居場所「ふらっとよりみち」を実施し、居場所の提供や地域との交流機会を通じて見守り体制づくりを行った。また、居場所利用を通じて把握したニーズに応じ、

ボランティア講座やアルバイト相談等へつなぐ支援を実施した。



6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

地域福祉活動費 計 4, 8 8 9, 2 0 0 円

(2) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

会食活動に助成 2 1 団体 計 3, 0 3 9, 7 8 3 円

ミニデイサービス活動に助成 2 団体 計 4 1 2, 3 2 0 円

(3) 幸区民生委員児童委員協議会への助成

幸区民児協育成費 計 1 6 0, 0 0 0 円

(4) 社会を明るくする運動等への助成

社会を明るくする運動 5 0, 0 0 0 円

幸区民祭協賛 5 0, 0 0 0 円

幸区ボッチャ大会への協賛 5 0, 0 0 0 円



7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)に協力

(2) 共同募金配分金を財源とした事業の実施

年末慰問金配布 2 8 8 世帯・計 1, 4 4 0, 0 0 0 円

年末慰問品配布(お茶) 2, 8 9 3 世帯・計 1, 8 1 2, 1 7 5 円

会食・配食実施団体助成 2 3 団体 計 4 6 0, 0 0 0 円

リハビリミニデイ助成 3 団体 計 2 4 0, 0 0 0 円

子育て支援事業実施団体助成 7 団体 計 3 5 0, 0 0 0 円

当事者団体活動助成 1 団体 4 0, 0 0 0 円

ボランティアグループ活動助成 1 0 団体 計 3 1 9, 0 0 0 円



8 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 3 5 1 件、ボランティアコーナー 1 7 1 件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

大型モニターで社協及び関係団体の情報発信を開始。



9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

区内貸付決定件数 2 9 件



10 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンターの運営

(2) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回(6月9日、2月9日)※2月書面開催

(3) ボランティア等に関する相談と調整、情報収集と提供

ア	ボランティア活動希望への相談・情報提供	35件(令和6年度	31件)
イ	ボランティア募集の依頼	29件(令和6年度	17件)
ウ	ボランティアによる支援	28件(令和6年度	12件)

(4) 人材の育成、講座の開催

ア	ボランティア講座の開催	3回(1月26日、2月2日、2月16日)	参加者 33名
イ	災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座の開催	1回(6月21日、7月5日)	参加者 37名
ウ	災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座フォローアップ研修会	1回(2月28日)	参加者 30名

(5) ボランティア情報の発信

(6) 交流会の実施

ア ボランティア交流会(3月6日) 参加者30名

(7) 福祉教育の推進

ア	福祉教育に関する相談	13件(小学校12件、中学校1件)
イ	チャレボラ2025	全29プログラム実施、48名参加

(8) ボランティア保険の受付

令和7年度保険加入件数 94件



1.1 あんしんセンター事業

援助が必要な高齢者や障害者が、地域の中で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と密に連携を図りながら事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 779件(初回相談66件、継続相談713件)

(※令和6年度相談件数 621件/初回相談53件、継続相談568件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 255件(初回相談105件、継続相談150件)

(※令和6年度相談件数 146件/初回相談79件、継続相談67件)

1.2 老人いこいの家運営等事業

年間利用者数 59, 794名

総合相談窓口 利用者からの聞き取りにより助言や関係機関を案内した。

適切な管理 不良個所の迅速な修繕、管理人による日常的な点検。緊急時対応マニュアル、土砂災害対応マニュアルの見直し。避難訓練の実施。各施設年2回。

教養講座 39講座 年558回開催

入浴事業 入浴事業実施回数 299回

老人いこいの家まつりの開催 各館でいこいの家まつりを実施。



多世代・地域交流事業の実施

- ・いこいの家まつりでは、こども文化センター、わくわくの子どもたちが舞台発表や、まつりのスタッフとして参加。また、囲碁や踊りを活動団体と一緒に行うことで交流した。
- ・近隣保育園、こども文化センター等と体操、ボッチャ、茶話会などを一緒に楽しむ「交流会」を設けたほか、近隣小学校や保育園の訪問を積極的に受け入れ、交流した。
- ・区内全館で「ちょこっと体操広場」を開催し、地域の方の健康増進といこいの家の広報の場とした。

老人福祉センターとの地域交流事業

ボッチャ交流、ウクレレコンサート、日吉いこいの家まつりで交流した。

老人いこいの家運営委員会の開催 22回

(5月13日、16日、29日、6月3日、4日、7月4日、8月5日、8日、12日、26日、9月2日、22日、30日、10月7日、11日、25日、11月27日、1月6日、2月20日)

1 3 災害活動関連事業

(1) 災害時におけるボランティアセンターの役割について検討



(2) 幸区総合防災訓練への参加 1回(8月30日)

1 4 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会幸区支会への協力

- ア 募金実績 一般募金11,606,085円 達成率 72.8%
年末たすけあい募金8,367,544円 達成率 77.7%
- イ 区支会委員会の実施 3回(5月20日、6月24日、1月29日)

(2) 幸区民生委員児童委員協議会

幸区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力。
福祉部(施設事業推進課)と協働で「福祉でつながる地元交流会」を実施した。

1 5 その他

(1) 福祉部の事業に協力

「老人福祉(・地域交流)センター」の指定管理運営事業について、福祉部と区社協が協働、連携して適正な管理運営を実施。

年間利用者数 26,795名

相談事業 健康相談 月4回 内科医、整形外科医が交代で実施
生活相談 随時対応(看護師による健康相談・血圧測定実施)

講座 25講座実施

行事 手仕事の会、スマホ・タブレット何でも相談会、座ってバレエ、ボードゲームで楽しもう、菖蒲湯、春の散策「日本銀行金融研究所 貨幣博物館」、幸区ロバくん倶楽部、男のフィットネス、園芸「緑のカーテン大作戦」、資生堂いきいき美容教室、七夕飾り、眼科講演会「緑内障・白内障」のお話、川崎市立看護大学の実習生受け入れ、コグニサイズ、老人いこいの家・老人福祉センター交流会(ボッチャ)、音楽DE脳トレ、チャレンジボランティア、さいわい子ども文化センター交流

会(ボッチャ)、社会福祉士相談援助実習生の受け入れ、敬老のつどい、プラザ祭り(地域多世代交流)、シニアのための健康フィットネス、幸区ボッチャ大会、内科嘱託医による「お通じのお話」、秋の散策「山手イタリア山庭園へ行こう」、幸区役所地域支援課保健師・幸区薬剤師会による「フレイル予防講座」「血管年齢」「脳年齢」測定会、柚子湯、折り紙を作って脳トレ、子供と編み物(こ文共催)、esports体験会、ボッチャ体験会、節分豆まき、終活セミナー「おひとりさま安心終活」、呼吸筋ストレッチ体操、幸ハッピーフェスティバル

老人いこいの家との地域交流事業

ボッチャ交流(再掲)、内科医講演会「～お通じのお話～」(再掲)

機能回復訓練 24回/年 柔道整復師が担当

川崎市中原区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆

1 地域福祉活動の推進

地区社協や福祉団体等への活動経費の一部助成を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動を育成支援した。

地域福祉活動拠点（地域における交流促進の場や地区社協等の小地域福祉活動団体の活動場所としての拠点）を新たに地域の中に確保していくことの検討や設置については、福祉施設の施設・設備の貸出状況を調査し、地区社協・地区民児協などに情報提供を行った。

地域福祉ケアシステムの構築に向けた行政、関係機関との連携については、行政の主催事業への協力や関係会議への出席などにより連携を図った。



2 ボランティア活動の推進

ボランティアセンター運営委員会を開催して、福祉分野のボランティア活動の振興に取り組んだ。市民のボランティア活動やボランティア団体の育成を支援するため、ボランティア相談による対応をはじめ、ボランティア養成のための養成講座の開催や団体への活動助成などを行った。

広報活動については、ボランティア情報紙「ポポラーレ」を発行し、ホームページやSNSのLINEなども活用するなどして、ボランティアセンター事業の周知やボランティア活動の促進につながる有益な情報の発信に努め、ボランティア活動の推進に取り組んだ。



3 広報啓発活動、組織体制の強化

常任委員会や運営協議会、地区社協会長会議、各委員会を開催し、適切な組織運営を行い、ネットワークの強化に努めた。

また、第6期地域福祉活動計画（令和6年度～8年度）に基づき、『「みんなが主役」、「みんなにわかる」、「みんなでつくる」おたがいさまの心で満ち溢れるなかはらの福祉』を実現するため、計画の方向性に沿って各事業の推進に努めた。

広報啓発活動については、広報紙「社協なかはら」「なかはらタイムズ」やボランティア情報紙などを発行し、社協事業をはじめ地域の福祉情報やボランティア情報を広く住民に周知するための情報提供や福祉の啓発に取り組んだ。

また、「なかはら福祉健康まつり」や各老人いこいの家における「いこいの家まつり」を開催するなどして、地域の人々の交流やつながり作りの促進に取り組んだ。



4 災害時の対応に向けての取り組みと連携強化

災害発生時に災害ボランティア活動を円滑に推進できるように、災害ボランティアの養成講座を開催するとともに、川崎市総合防災訓練に参加して災害ボランティアセンターの設置運営訓練を行い、市民への災害ボランティアセンターの周知を図った。

また、中原区防災連絡協議会などに参加して関係団体・機関との連携に努めた。



事業報告の内容

中原区社会福祉協議会 事業費【79,918千円】

【サービス区分事業活動支出	68,868千円】
【サービス区分施設整備等支出	623千円】
【共同募金配分金	10,427千円】

1 中原区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（6月、9月、2月）
- イ 運営協議会の開催 2回（6月、2月）
- ウ 区・地区社協会長会議 1回（7月）



(2) 令和7年度会員及び賛助会員数

	R7実績	R6実績
会員数	116	117
賛助会員数	1,532	1,538

(3) 寄付金品の受け入れ

寄附金 11件 合計 1,194,283円
寄託品 2件（車いす、布おもちゃ）

2 調査・研究事業

(1) 第6期地域福祉活動計画の円滑な推進

計画に基づいて各事業の推進に努めるとともに、計画の重点目標としている地域福祉活動拠点の設置を推進するため、福祉施設の施設・設備の貸出状況を調査し、地区社協・地区民児協に情報提供した。



3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会

令和7年度地域部会地区社協役員等研修会に参加した。

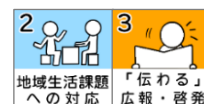


4 企画・広報事業

(1) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 福祉を中心とした各種相談への対応

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて関係機関・団体と連携して支援に努めた。
地域課で対応した総合相談（ふくし相談） 相談件数 353件



(2) 広報啓発活動

ア 機関紙「社協なかはら」の発行

137号（71,000部）、138号（71,000部）
139号（71,000部）、140号（71,000部）

イ ホームページの管理運営

中原区社会福祉協議会ホームページ（<https://www.nakaharaku-shakyo.jp/>）
利用者の利便性向上のため改修を行い、令和8年3月30日にリニューアル公開した。）

ウ なかはら福祉健康まつりの開催

中原区役所庁舎を会場に区内福祉関係団体等が参加して実行委員会形式で「第29回なか

- はら福祉健康まつり」を令和7年11月16日に開催した。 来場者数は約1,400人
- エ 中原区民祭への参加
令和7年10月19日 等々力緑地催し物広場で開催
- オ 広報啓発物の作製
中原区役所ガイドマップへの広告掲載
区社協リーフレットの作製（10,000部）
- カ 福祉関係図書・DVD等の貸出し及び閲覧 通年
- キ 会員向け情報紙「なかはらタイムズ」の発行 毎月160部
- ク 中原区社協新春のつどいの開催
令和8年2月13日 宝珍樓向河原店 参加者数76人

5 地域福祉活動事業

（1）地区社協活動への支援

事務的な支援や情報提供、助成金等により支援を行った。

（2）小地域福祉活動の推進

情報提供や助成金等により支援を行った。

（3）子育て支援の推進

就園前のお子様の親を対象とした「布おもちゃづくり教室」を開催した。

（4）福祉教育の推進

- ア 学校、企業、地域における福祉教育の推進
- イ 福祉教育に関する相談への対応及び連絡調整、講師等の調整や派遣、機器・機材等の貸出し
相談校・団体数 17件（小学校10校、中学校1校、その他6団体）
対応件数 41件（相談1件について複数対応あり）
高齢者疑似体験グッズ等の貸出し 19件

（5）福祉当事者団体への支援

情報提供や活動費助成などにより支援した。

（6）地域包括ケアシステム構築に向けた連携と地域支援

構築に向けて中原区役所や地区社協等との連携に努めた。
中原区役所地域ケア推進課との連絡会議 4回（8月、10月、12月、1月）
地域福祉活動拠点における居場所づくりの推進について、福祉施設の施設・設備の貸出状況を調査し、地区社協・地区民児協に情報提供した。
地域包括ケアシステム推進に寄与する地域活動の担い手の養成のため、ボランティア基礎講座などを開催した。

（7）印刷機等の機器・機材の貸出し

- ア 福祉活動を目的とする印刷等のために貸出しを行った。 通年
- イ 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し 19団体

（8）障害者（児）リフレッシュ事業の実施

区内在住の障害者（児）及びその家族を生きがいづくりや自立支援を目的にスポーツ観戦（女子プロバレーボールチームNECレッドロケッツ川崎ホームゲーム戦）を開催した。

（9）車いすの貸出し

区民への車いす無料貸出 289件



(10) 福祉用具リユース情報の提供

- ア 譲りたい要望 13件
イ 譲ってほしい要望 5件
ウ 譲渡成立件数 5件（昨年度からの要望ケースの成立を含む）

(11) 中原老人福祉センターとの連携・協力

事業の広報周知などで連携・協力した。



6 団体等助成事業

(1) 地区社協育成交付金【共募】 5地区社協 計 497,890円

(2) 地区社協活動費の助成【共募】 5地区社協 計 3,936,418円

(3) 地区社協地域福祉活動費の助成【賛助会費】 5地区社協 計 2,378,250円

(4) 高齢者ふれあい活動支援事業補助金の交付

会食活動に助成 9団体 計 1,270,000円

(5) 区社協会員のボランティア・当事者団体等への助成【共募】

区社協第9種・10種会員 14団体 計 540,000円

(6) 協賛事業への助成【共募】

- ア 中原区社会を明るくする運動 50,000円
イ 中原スポーツまつり 10,000円
ウ なかはらランニングフェスタ 20,000円

(7) ボランティア銀行なかはら福祉活動助成

地域福祉活動を自主運営で行っている当事者・ボランティアへ公募及び申請方式で行い、ボランティア銀行なかはら運営委員会にて、助成審査を行った。

- ア 会員以外の団体 申請 17団体・交付 17団体 計 360,000円
イ 地区社協、区民児協、地区民児協 申請・交付 1件（区民児協） 31,710円

7 委員会等活動事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会議の開催

地区社協会長・地区民児協会長合同会議 1回（7月26日）



(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

市・区役所、地域包括支援センター、社会福祉施設・団体等の主催会議に参加した。

(3) 会員への情報提供

会員向け情報紙「なかはらタイムズ」 毎月発行



8 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

(2) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末見舞金配布 493世帯 計 2,465,000円

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室及びボランティアコーナーの貸出し

研修室 348件、ボランティアコーナー 328件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

通年

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

社協、行政、関係機関・団体等の広報物 通年



10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

通常貸付決定件数 8件



11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 3回（6月20日、10月24日、2月25日）

(2) ボランティア依頼及び活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 22件（令和6年度 19件）

イ ボランティア募集の依頼 20件（令和6年度 30件）

(3) ボランティア情報誌の発行等、広報活動の実施

ア 情報紙「ポポラーレ」年4回発行（4月、7月、10月、1月 各1400部）

イ 広報活動

情報紙やボランティア相談等を通じてボランティアセンターを周知した。

また、なかはら福祉健康まつりにてパネル展示によるボランティアセンターのPR活動を行った。

(4) 各種講座・セミナーの開催

ア 区民を対象にしたボランティア養成講座 4講座開催

イ 夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2025」 7プログラム実施した。



1 2 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 999件 (初回相談37件、継続相談962件)
(※令和6年度相談件数 974件／初回相談36件、継続相談938件)



(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 313件 (初回相談86件、継続相談227件)

1 3 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

参加人数 150人 ・ ボランティア 103人



(2) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計68, 674人

(3) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

運営委員会 ごうじ、新城、西加瀬、井田 各3回
等々力、中丸子、丸子多摩川 各2回

1 4 災害活動関連事業

(1) 災害対策・事業関連

- ア 防災について関係機関との連携強化
中原区防災連絡協議会等で関係機関と災害時の連携について情報交換を行った。
川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加した。
- イ 災害ボランティア養成講座 1回開催 (9月25日)



1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会中原区支会

募金実績 20, 662, 974円 達成率 65%



(2) 中原区民生委員児童委員協議会

中原区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力した。

1 6 その他

(1) 他部署が実施する事業に協力

総務部及び福祉部を中心に実施している「地域生活支援SOSかわさき事業」の取組「食糧支援かわさき」に協力し、食糧を必要としている世帯へ食糧を配分した。

また、地域生活支援SOSかわさき事業連携ネットワーク会議(中原区会議)を開催した。令和8年2月10日 参加者数 37人

そのほか、中原老人福祉センターとの連携を図り、センターの事業運営に協力した。



川崎市高津区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆

1 地域共生社会実現に向けた高齢者、障害者、子ども・子育て世代、生活困窮世帯への支援



高齢者の健康づくりへの支援として、各地域で実施している会食会や、いこいの家における健康体操、ミニデイサービス、教養講座の実施、また、ボッチャや任天堂スイッチスポーツの活用により、高齢者の健康増進に繋がるよう努めました。

『認知症バリアフリーのまち高津区』を進める一環として、認知症当事者やその家族の方々を地域で支える社会を目指し、認知症カフェ等への支援に取り組みました。また、区役所と連携し、いこいの家での認知症サポーター養成講座の開催や、認知症月間『高津区をオレンジで染めよう2025』に協力する等啓発に努めました。

障害者への理解促進を目指して、福祉でつながる地元交流会および地域生活支援SOSかわさき事業高津区連携ネットワーク会議を合同開催し、障害をテーマに、地域での課題の確認やお互いに協力できる事等を話し合いました。また、本会会員である川崎市高津区身体障害者協会、川崎市育成会手をむすぶ親の会高津支部が実施する研修会の開催を支援しました。

子ども子育て世代への支援としては、こども・子育て支援事業推進委員会において、子育て中の親の友達作りや情報交換の場づくりなど、様々な育児不安の軽減を目的として、健康福祉まつりの中で親子ヨガを実施しました。また、寄付金を財源として、令和7年度は新たに、子ども食堂・子育てグループへの助成支援を行いました。

生活困窮者への支援としては、経済面で困窮している世帯について、生活福祉資金貸付制度による資金の貸付と必要な相談支援を行うほか、生活が困窮している小学生以下の子どもがいる世帯へのクリスマスケーキの無料配布事業を実施しました。

2 地域の実践への支援



4つの地区社協が主体的に活動を進められるよう、情報提供・助言、活動費助成など運営支援を行いました。

また、社会福祉法人の専門性や横の繋がりを活かした地域生活支援SOSかわさき事業と連携し、橘地区および高津地区において地区社協と福祉施設との交流会を開催し、地域及び福祉施設それぞれの課題や取組について意見交換を行い、地域と福祉施設との今後の連携や、施設間の連携が深まるよう推進しました。

3 地域の担い手、福祉の担い手の創出



近年、地震や台風などの災害が多発し、災害ボランティアセンターが立ち上がる機会があることから、災害時のボランティア活動やボランティアセンターの役割に対する理解を深める研修を開催しました。

また、高津第三地区社協が実施する星空観察会において、東高津小学校4年生とその親、兄弟に対して、福祉人材バンク発行の「介護のシゴト」の冊子を配布し、介護の仕事の啓発に努めました。

事業報告の内容

高津区社会福祉協議会 事業費【89,364千円】

【サービス区分事業活動支出 81,594千円】

【サービス区分施設整備等支出 113千円】

【共同募金配分金 7,657千円】



1 高津区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（6月2日、9月26日、2月26日）

イ 運営協議会の開催 2回（6月3日、2月27日）

(2) 地区社協・地区民児協会長会議

ア 地区社協長会議の開催 1回（5月20日）

イ 地区社協・地区民児協会長会議 1回（5月20日）

(3) 会員、賛助会員実績

ア 正会員 125件

イ 賛助会員 1,861件

	R7 実績	R6 実績
正会員数	125	122
賛助会員数	1,861	2,071

(4) 寄附金の受入れ活用

ア 寄託金 26件 1,420,747円

イ 寄託品 1件

	R7 実績	R6 実績
寄託金（件）	26	29
寄託金（円）	1,420,747	6,098,014
寄託品（件）	1	2

2 調査・研究事業

(1) 第6期川崎市社会福祉協議会地域福祉活動計画に基づく高津区社会福祉協議会地域福祉活動計画の推進

市区社協と理念や目標を一つに策定した、令和6年度から3年間の地域福祉活動計画に基づいて事業の推進に努めました。



(2) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化

（ア）相談件数 651件

3 研修事業

(1) 区・地区社会福祉協議会研修会の開催

ア 区社協・地区社協研修会の開催 1回（7月22日）



4 企画・広報事業



(1) 広報紙「おあしす」(年2回発行、編集委員会の開催)・情報紙「トピックス」(毎月発行)

- ア 広報紙「おあしす」 年2回、各7,000部発行、編集委員会の開催 5回
(6月11日、8月12日、12月17日、1月15日、2月3日)
- イ 情報紙「トピックス」年12回、各550部発行

(2) ホームページの刷新・運用

ホームページを刷新し、地域住民に向けて、福祉情報、ボランティア情報、区社協事業の広報を随時行った。

(3) たかつ区健康福祉まつり・高津区民祭等への参加

- ア たかつ区健康福祉まつり 9月6日
区社協として、競輪選手による競輪体験、正しい歩き方教室、ユニバーサルスポーツとしてバギーとターゲットボッチャ、午後には歌声喫茶を行った。
その他、たかつボランティア・当事者連絡会の参加申込の手続きや参加団体の取りまとめを行い、当日の準備などで実行委員会との連携・支援を行った。
- イ 高津区民祭 7月13日
地区社協関係者28名と共にパレードに参加し、区民に対して区社協について理解を深めていただくよう区社協事業のアナウンスや、団扇、キットパスの配布を行った。

(4) タウンニュース等による情報発信

福祉敬老大会やクリスマスケーキ配布事業について、タウンニュースに掲載依頼し、広く区民への情報発信を図った。

5 地域福祉活動事業



(1) 地区社会福祉協議会への支援、連携・協働

共同募金配分金を財源とした交付金及び賛助会費の配分金を高津区内の4地区社協へ活動費として助成した。

また、地区社協が地域の高齢者、障害児・者、児童・青少年などを対象として推進している小地域福祉活動や地域づくりの取組(高津第一地区社協「高齢者サロンたかつの縁側」、高津第二地区社協「子育てサロン in しもさくのべ」、高津第三地区社協「人生100年会」、橘地区社協「橘地区内の福祉施設との交流会」など)に対し、情報提供や連絡調整、企画、事務的な協力などにより活動を支援した。

(2) 地域と施設との連携への支援

- ア 橘地区内の福祉施設との交流会 10月28日
- イ 高津第一地区、第二地区、第三地区社協と福祉施設との交流会 1月30日
- ウ 橘第2地区会食会において、障害者グループホームの会場を借りて実施することを支援し、民生委員と障害者施設との交流・ネットワーク作り、会食会に参加する高齢者とグループホーム入所者の交流に繋げた。

(3) 高齢者の健康づくりの支援

- ア いこいの家における任天堂スイッチ利用者数 年間延べ1,318名
- イ いこいの家におけるボッチャ利用者数 年間延べ3,330名

(4) 認知症高齢者及びその家族への支援に向けた普及啓発、居場所づくり

- ア いこいの家における認知症サポーター講座の開催 2回(梶ヶ谷いこいの家、末長いこいの家)

- イ 認知症カフェの立ち上げ支援（ピン・カフェ、みかんサロン）
- ウ 高津区役所地域みまもり支援センター地域支援課による「9月は世界アルツハイマー月間 2025高津区をオレンジに染めよう」啓発への協力

(5) 障害者に対する理解促進と普及啓発

- ア 川崎市高津区身体障害者協会と川崎市育成会手をむすぶ親の会が実施する研修会の開催支援 「聴覚障害について！」 ～手話落語も見てみよう～ 2月13日

(6) 子ども子育て支援【共募】

- ア こども子育て支援事業推進委員会の開催 4回（5月14日、8月19日、11月20日、3月4日）
- イ 子育て支援研修会の開催 3月4日
- ウ たかつ区健康福祉まつりにおける親子ヨガの実施 9月6日
- エ 子育て支援グッズの貸し出し等 37件（個人向け8件、機関・団体向け29件）
- オ 川崎市教育委員会主催「校庭で思いっきり遊ぼう！@高津中学校」 2月7日 ※中止

(7) 生活困窮世帯への支援（クリスマスケーキ配布等）【共募】

- 年末たすけあい募金と寄付金を基に、区内の生活困窮者世帯で小学生以下のこどもがいる世帯に対して、クリスマスケーキを配布した。（12月23日、12月24日）
91世帯に配布

(8) 新たな地域の担い手、福祉の担い手の創出

- ア 区民に対する災害ボランティアセンターについての啓発
高津地区防災訓練に参加 11月29日 久本小学校
橘地区防災訓練に参加 3月1日 橘小学校
- イ 災害ボランティアセンター研修の実施 10月22日 福祉パルたかつ
- ウ 介護、保育の仕事の啓発
- エ 高津第三地区社協が実施する星空観察会において、東高津小学校4年生とその親、兄弟に対して、福祉人材バンク発行の「介護のシゴト」の冊子を配布し、介護の仕事の啓発を行った。 11月28日

(9) 高津区福祉敬老大会の開催（祝品贈呈、功労者・寄付者表彰、実施委員会の開催）

- 高津市民館を会場として、90歳祝の方を会場に招待し開催した。併せて、区内老人クラブの功労者、地域福祉活動の功労者、多額寄付者の方への会長表彰、会長感謝を行った。
- ア 高津区福祉敬老大会 9月13日
- イ 実施委員会の開催 3回（6月18日、7月29日、9月13日）

(10) 車椅子の貸出

- 区民及び福祉教育（車いす体験）のための車いす無料貸出 278回

(11) 移送サービス事業の実施（移送車による移送サービス、車両貸出し）

- 移送サービス利用件数39件（車両貸出は6件）（※令和6年度60件）

(12) ふれあい会食・配食、ミニデイケア実施団体交流事業の開催

- 高齢者向け食事サービス団体交流会の開催 3月2日

6 団体等助成事業



(1) 共同募金配分金による地区社協交付金の交付

区内4地区社協への助成金 計3,569,635円

(2) 賛助会費の配分による地区社協への地域福祉活動費助成

区内4地区社協への助成金 計2,608,200円

(3) 年末たすけあい募金による小地域福祉活動支援事業助成（審査会の開催）

ボランティア・当事者団体等への助成金 55団体 計1,570,000円

(4) 高齢者ふれあい活動支援事業（ふれあい会食会・配食会、ミニデイケアへの助成）

会食活動に助成 12団体 計1,492,026円

(5) 高津区社会を明るくする運動への助成（推進委員会への参画）

ア 第75回社会を明るくする運動への助成 70,000円

イ 社会を明るくする運動高津区・高津地区推進委員会（5月26日）

ウ 社会を明るくする運動橘地区推進委員会（6月3日）

エ 社会を明るくする運動高津区・高津地区推進委員会反省会（12月15日）

(6) 寄附金による地域活動団体への助成（記念事業、地域包括ケアシステム推進に向けた互助活動への助成）

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計130,000円

(7) 寄附金による子ども食堂・子育てグループへの助成（子ども・子育て支援）

子ども食堂・子育てグループへの助成 8団体 計650,000円



7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

神奈川県共同募金会川崎市高津区支会委員会並びに年末たすけあい運動実施委員会の開催
2回（5月28日、1月23日）

(2) 年末たすけあい配分事業（民生委員児童委員を通じての年末見舞金の贈呈、配分委員会の開催、その他配分を受けての事業実施）

年末見舞金の配布 348世帯・計1,044,000円

年末たすけあい運動実施委員会（配分委員会）の開催1回（11月28日）

8 福祉パル管理運営事業



(1) 地域福祉活動拠点としての「福祉パルたかつ」の管理運営

「福祉パルたかつ」の適正な管理運営を行った。

(2) 研修室、フリースペース（ボランティアコーナー）の貸出し

研修室A 460件、研修室B 193件、フリースペース 417件

(3) 印刷機・紙折り機等の機材の貸出し

印刷機は予約制により貸出

(4) 福祉広報物の配架・掲示

行政・関係機関・団体等からの広報物や福祉情報の案内等を随時配架・掲示して周知した。

9 生活福祉資金貸付事業



(1) 生活福祉資金貸付事業

- ア 相談・問合せ件数 1, 367件
- イ 区内貸付決定件数 24件

(2) だいJOBセンター等関係機関との連携による支援

民生委員児童委員、行政の関連部署や公共職業安定所、だいJOBセンター（自立支援相談機関）等の各関係機関と連携しながら貸付相談を行い、低所得世帯等の自立促進に向けて支援した。

(3) 特例貸付借受者のフォローアップ支援

区社協の「地域の連携による孤立しない支援」と福祉部生活再建支援室の「アウトリーチによる個人の生活を支える支援」により特例貸付借受者に寄り添った支援を展開した。

10 ボランティア活動振興事業



(1) 高津区ボランティア活動振興センター運営委員会・事業企画部会の開催

運営委員会の開催 1回（5月23日）、事業企画部会の開催 6回（4月30日、7月2日、8月20日、11月20日、12月22日、3月10日）

(2) ボランティア講座の実施

- ア 傾聴入門講座の実施（9月24日） 参加者21名
- イ 災害ボランティアセンター研修会の実施（10月22日） 参加者12名 （再掲）
- ウ 高齢者向け食事サービス団体交流会の実施（3月2日） 参加者13名

(3) ボランティアに関する相談対応・情報提供

- ア ボランティア相談件数
 - （ア）ボランティア派遣依頼 17件（令和6年度 9件）
 - （イ）ボランティア活動希望 22件（令和6年度 22件）
- イ ボランティア保険の利用促進
各種行事を実施する団体や、ボランティア活動を行う個人に対し、リスクマネジメントの観点より、保険のメリットについての周知および保険の利用を促した。

(4) 「たかつボランティア情報」の発行

毎月発行する高津区社協情報紙「トピックス」に「たかつボランティア情報」のコーナーを設け、ボランティア関連情報を掲載した。

(5) 寄託金の配分助成

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計130,000円（再掲）

(6) たかつボランティア・当事者連絡会等との連携・支援（交流会の開催等）

第14回たかつボランティアまつりの開催（1月21日）

(7) 福祉教育に関する相談対応・情報提供

- ア 福祉教育に関する相談 6件
- イ 体験用車いすの貸出 9件

(8) 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2025」の実施（福祉部・区社協・関係施設等の共催）

- ア 災害ボランティア体験（8月4日）参加者12名
- イ 子どもの外遊びサポートボランティア体験（7月29日）参加者2名
- ウ ニヶ領用水清掃ボランティア体験（7月26日）参加者18名
- エ ミニデイケアで高齢者とのふれあいボランティア体験（8月21日）参加者4名

1.1 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 604件（初回相談28件、継続相談576件）

（※令和6年度相談件数 603件／初回相談32件、継続相談573件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 329件（初回相談98件、継続相談231件）

（※令和6年度相談件数 218件／初回相談93件、継続相談125件）



1.2 老人いこいの家運営等事業

令和6年度から新たに指定管理者として区内7か所（高津・上作延・子母口・末長・梶ヶ谷・東高津・くじ）の老人いこいの家の管理運営を受託

(1) 老人いこいの家利用人数

利用人数 60,944人（団体45,420人、個人15,524人）

（令和6年度 54,841人〔団体40,371人、個人14,470人〕）

(2) 老人いこいの家教養講座

参加人数 422回、5,496人

（令和6年度 418回、4,953人）

(3) いこいの家まつりの実施

高津、上作延、子母口、末長、梶ヶ谷、くじ 参加者622名

(4) ミニデイケアサービス事業

- ア 上作延老人いこいの家で実施 参加人数102人、ボランティア人数355人
12回（4月17日、5月15日、6月19日、7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日、1月15日、2月19日、3月19日）
- イ 末長老人いこいの家で実施 参加者数93人、ボランティア人数139人
12回（4月10日、5月20日、6月12日、7月10日、8月14日、9月11日、10月9日、11月13日、12月11日、1月8日、2月12日、3月12日）
- ウ 東高津老人いこいの家で実施 参加者数70人、ボランティア人数219人
12回（4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月27日）

(5) こども文化センター等との連携による多世代交流事業の推進

- ア 高津いこいの家 地域福祉施設ちどりととの合同防災訓練 3月6日
- イ 上作延いこいの家 上作延こども文化センターとの任天堂スイッチスポーツボウリング大会
3月30日
月例のミニデイサービスに川崎たちばな保育園の園児が来所し、歌と踊りの披露 11月20日



- ウ 子母口いこいの家 子母口こども文化センター、わくわくプラザとのボッチャ交流会
8月25日
蟹ヶ谷保育園年長組との子母口カフェボッチャ交流会
12月19日
- エ 末長いこいの家 新作小学校児童とその母親との盆踊りによる交流 7月5日
新作小学校2年生との音遊び及び将棋交流会 10月15日
- オ 梶ヶ谷いこいの家 梶ヶ谷こども文化センター、梶ヶ谷小学校わくわくプラザ児童との
ボッチャ交流会 3月25日
- カ 東高津いこいの家 ハロウィンに因み、近隣のキッズルーム「ひこうせん」の2歳児へ
お菓子を渡し交流 10月30日
東高津小学校2年生の社会見学で、自主団体の「体操」と「ちぎり
絵」の見学と体験 11月26日
- キ くじいこいの家 くじ保育園お遊戯会での交流 1月24日

(6) 老人いこいの家運営委員会の開催

- ア 高津老人いこいの家 2回（7月4日、11月21日）
- イ 上作延老人いこいの家 2回（5月29日、10月20日）
- ウ 子母口老人いこいの家 3回（4月18日、9月9日、1月29日）
- エ 末長老人いこいの家 2回（6月16日、9月30日）
- オ 梶ヶ谷老人いこいの家 2回（7月15日、8月5日）
- カ 東高津老人いこいの家 2回（11月18日、2月6日）
- キ くじ老人いこいの家 3回（7月2日、9月19日、3月4日）

(7) 老人いこいの家管理人研修

老人いこいの家管理人の資質向上を目的として、全管理人（研修時）を対象に、管理人研修を実施した。

- ア 認知症サポーター養成講座 他 11月25日、12月3日、12月4日
参加者19名

(8) 夜間・休日等施設開放事業

- ア 梶ヶ谷老人いこいの家で受託 2回 利用者13名

1.3 災害活動関連事業

(1) 区役所の防災訓練などにおける災害ボランティアセンターの周知

高津地区防災訓練（上作延小学校にて実施）、橘地区防災訓練（橘小学校にて実施）に参加し、町会・自治会の方々に対して、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるように、パネル掲示とチラシ配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行った。（再掲）



(2) 災害ボランティアセンター研修会の実施

災害ボランティアセンター研修会の実施 10月22日 高津パル（再掲）

(3) 高津地区における災害時情報共有体制（LINE活用）への協力について

高津地区では、災害時の情報共有体制の強化を目的として、各町会と区役所が連携し、LINEを活用した連絡グループを令和7年度に試験的に発足した。

高津区社会福祉協議会は本取組に協力し、災害ボランティアセンターに関する情報発信を行う役割を担った。

令和7年9月1日には試験的な運用を実施し、各町会から安否情報や地域状況の報告とあわせて、災害ボランティアセンターに関する周知を行い、情報共有の有効性を確認した。

1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募基金会高津区支会団体事務

高津区支会の事務局として、赤い羽根共同募金並びに年末たすけあい募金運動の実施、支会委員会の開催（５月２８日、１月２３日）、募金の取りまとめ、配分決定等を実施

募金実績	一般募金	9, 0 3 4, 2 6 3 円	達成率 5 9. 7 9 %
	年末たすけあい募金	6, 7 2 9, 0 0 6 円	達成率 6 4. 0 9 %

(2) 高津区民生委員児童委員協議会団体事務

高津区民児協の事務局として、区民児協の組織運営（総会、理事会、常任理事会、研修会）連絡調整、その他事業を実施。

1 5 その他

(1) 総合相談支援（関係機関・団体とのネットワークによる支援）

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて行政・地域包括支援センター等の関係機関・団体と連携して支援に努めた。

(2) 行政等との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターとの連携会議を定期的で開催し、情報交換や共同して行う事業について協議した。

ア 高津区役所地域みまもり支援センターとの連携会議４回（５月１３日、８月１３日、１２月１０日、３月６日）

イ 高津区地域包括支援センター運営協議会への出席 １０月８日、２月２５日

(3) 高津区全町内会連合会との高津区賀詞交換会の開催

１月１０日（土） 参加者約５００人

(4) 高齢・障がい・子ども子育て等関係機関・団体との連携

各種関係機関・団体との連携・協力（会議への出席、事業への協力）に努めた。

ア 川崎市高津区身体障害者協会と川崎市育成会手をむすぶ親の会が実施する研修会の開催支援 ２月１３日（再掲）

イ 社会復帰訓練所 苦情解決報告会への出席 ７月２３日

ウ 養護老人ホーム川崎市恵楽園苦情解決第三者委員会への出席 ８月７日

エ たかつ精神保健福祉連絡会への出席 ４月１０日、５月８日、６月１２日、７月１０日、８月２１日、９月１１日、１０月９日、１１月２０日、１２月１１日、１月８日、１月１７日、２月１２日、３月１２日

(5) 行政及び福祉関係団体の事業への共催及び後援等の協力・支援

行政及び区内福祉関係団体等からの依頼に基づき、共催及び後援名義の使用を許可した。

(6) 実習生・福祉学習等の受け入れ

社会福祉士実習生１名（昭和女子大学）の受け入れを行った。（８月１２日～９月１９日）

(7) 高津老人福祉・地域交流センターとの連携など他部署の事業への協力

ア 高津老人福祉・地域交流センターとの共同事業として、いこいの家と老人福祉センター 対抗ボッチャ大会の開催 ３月１０日

イ 川崎市保育まつりへの協力 １１月２６日

川崎市宮前区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆



1 ささえあう地域づくり

宮前区内にある50を超えるコミュニティカフェの支援強化を行うため、宮前区社協ではカフェ連絡会の事務局として情報交換や研修会等を行ってきた。また、みやまえ福祉フェスティバル等のイベントにカフェ連絡会として参加することで、複数のコミュニティカフェのメンバーが協力する機会を作った。また、カフェ連絡会において、災害関連の研修会を実施して、防災意識の高揚と啓発に寄与した。コミュニティカフェを支援することで、地域の方が安心して、気軽に集える居場所づくりを推進した。

また、ボランティア活動振興センターでは、一芸ボランティアフェスタの開催や大人のためのチャレンジボランティア講座受講者による新たな福祉団体の立ち上げを行った。

賛助会費や共同募金の寄付の依頼に合わせて、区・地区社協の取り組みのチラシを配布するなど活動の理解を促し、広く地域住民に協力を求めた。



2 「知る」を広げる情報発信の充実

みやまえの福祉編集委員会を開催して地域の方からご意見をいただき、広報誌「みやまえの福祉」を年4回発行した。掲載内容としては、宮前区社会福祉協議会の事業報告や予算、コミュニティカフェの特集、夏休みチャレンジボランティア2025の紹介、例年多くの住民の皆様にご参加をいただいているみやまえ福祉フェスティバルの開催のお知らせと報告、社会問題化している特殊詐欺への防犯対策など宮前区社会福祉協議会の取り組みや福祉情報の発信を行った。

また、区社協常任委員等種別会員研修では、「災害ボランティアセンターの役割」について、行政と社協の両面からご講演いただき、それぞれの取り組みや役割について認識を深めることができた。



3 地域に見えるネットワークづくり

みやまえ福祉フェスティバルを開催して、各福祉団体のパネル展示や健康元気度チェック、手話体験コーナー、音訳体験コーナー、ボランティア相談コーナー、その他福祉団体による様々な催しを実施することで、年齢を問わず地域住民に福祉のネットワークを見える形で伝えることができた。また、みやまえボランティア当事者連絡会が主催する防災講座の開催等を支援することにより、有事の際に地域住人が一致団結して地域を支えるよう、地域住民へ防災の啓発を行った。



4 つながりによる地域力の向上

区役所や福祉関係団体が主催する各種会議や研修会に参加して、お互いの業務内容や課題等を共有することにより、それぞれの役割を理解し協力して課題解決を図るためのつながりの強化ができた。

いこいの家の教養講座など地域包括支援センターの協力を得て開催することにより日頃からの顔の見える関係性を構築できた。

福祉でつながる地元交流会withSOSネットワーク会議を開催することで、各種施設と民生委員児童委員との相互理解を促進し、つながりの強化ができた。

事業報告の内容

宮前区社会福祉協議会 事業費【76,927千円】

【サービス区分事業活動支出 68,849千円】

【サービス区分施設整備等支出 2,572千円】

【共同募金配分金 5,506千円】

1 宮前区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 3回
- ・ 運営協議会の開催 1回（書面開催）

(2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 1回

(3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 0回

(4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会・地区民生委員協議会での説明会を開催の上協力を依頼、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付するなど区社協事業の周知を行った。

(5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい運動実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやま福祉フェスティバル実行委員会等の各種委員会を随時開催した。



2 調査・研究事業

(1) 川崎市社会福祉協議会第6期地域福祉活動計画の進行管理

川崎市社会福祉協議会第6期地域福祉活動計画の宮前区版の評価シートについて検討した。

(2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまえカフェ連絡会の役員会（4回）、全体会（3回）開催し、全体会にて「かわさき防災アプリ」についての研修会を行い、防災意識の向上と各カフェの活動状況の把握・連携の強化に努めた。



3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修会の開催

2月9日（月）に災害ボランティアセンターの行政と社協の役割を理解する目的で、川崎市青少年の家を会場に、宮前区役所危機管理担当課長と福祉部ボランティア活動振興センター所長より講義をいただき、研修会を開催した。

(2) 区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

（1）に記載

(3) 地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

地区社協が輪番で担当し開催していたが、コロナ禍以降実施を見合わせており、取り組み方法や事業について引き続き検討していくこととした。



4 企画・広報事業



(1) 第24回 みやまえ福祉フェスティバルの開催

12月7日(日)に市民館で、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」を開催した。地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典および地域福祉の推進・理解を目的にメロコス体操や大道芸、福祉バザー等を実施した。

また、各地区社協および区内関係団体等の協力の下、親子コンサート、親子リトミック、パラスポーツの体験ブースや模擬店の出店等を行うとともに、当日の開催状況を動画配信して周知することにも新たに取り組んだ。

(2) 広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行 (全4回発行)

令和7年度の主な掲載内容としては、宮前区社会福祉協議会の事業や予算、コミュニティカフェの特集、夏休みチャレンジボランティア2025の紹介、みやまえ福祉フェスティバルの開催のお知らせと報告、特殊詐欺への防犯対策など福祉情報の発信を行い、区社協活動への理解を深める取組みを行った。

令和7年度の総発行部数は34,700部。主な配布先は各関係機関、町内会・自治会など。

(3) ホームページによる広報活動

ホームページのリニューアルを行い、区社協の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報をより伝えやすく工夫し、福祉啓発の充実を図った。

(4) 宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるPR活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より地域に密着した親しみやすいキャラクターとして、社協活動のPRを行った。

(5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースや民間新聞、ケーブルテレビ等に情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

(6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

新しい幅広い世代や対象に向けた情報発信の在り方に関する手段として、SNSの活用方法に関する検討を継続して行った。

5 地域福祉活動事業



(1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施した。

(2) 子育て支援事業の実施

① 子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくり推進のために、子育て支援関係者連絡会に参加し、うえるかむクラス、子育てグループ・サロン・赤ちゃん広場等交流会の実施に協力した。

② ふれあい動物コーナー実施

10月25日(土)にみやまえ子育てフェスタ2025にて、未就学児世帯を中心に親子のふれあいを目的とした移動ふれあい動物園を市民館前広場で実施した。その他の全体運営についても協力を行った。

③研修会の実施

8月27日（水）に市民館で「乳児院における地域支援」に関する講演会を実施した。

（３）車いす貸出事業

怪我などに伴い一時的に歩行が困難となった方などを対象に、短期的かつ単発的な使用に限り、無料利用できる車いす貸出事業を実施。貸出のべ台数 225台だった。

保有車両については、自走式、介助式、1台は耐荷重が130kgの車いすを揃えており、希望に応じて貸出した。

（４）買い物支援サービス事業

昨年度より開始した地域での移動スーパーの取り組み（市営鷲ヶ峰西住宅自治会、県営野川南台団地自治会等）に情報提供や広報等で協力を行った。

（５）医療・保健・福祉との連携

①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要援護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として参加し連携を深めた。

②徘徊高齢者ＳＯＳネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前登録することで、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえＳＯＳネットワーク」に参加協力をした。

（６）総合相談（ふくし相談）事業

地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化

相談件数 4 1 6 件

（７）在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催していたが、令和7年度は諸事情により開催できなかったが、令和8年度は再開を模索している。



6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

（１）ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

（２）地域の福祉関係団体への活動助成

宮前区社会を明るくする運動実施委員会

宮前区子ども会連合会

7 共同募金配分金事業

（１）共同募金運動に協力



神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて12,565,646円の実績をあげることができた。

また、令和7年度は、駅頭を使用して募金呼びかけを行う、「街頭募金活動」を10月1日から12日までの計8日間で実施し、全37団体の参加協力をいただき、募金運動（活動）を行った。

(2) 年末たすけあい見舞金配分事業

① 年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を財源とした、年末たすけあい見舞金に関し、今年度申請いただいた配布対象の方、249名の方に配布を行った。(1名あたり5,000円)

② 福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう14団体に対し、総額 896,250円の助成金を交付した。

③ 本会が実施する各種事業において、配分金を活用した。



8 福祉パル管理運営事業

川崎市から福祉パルみやまへの管理運営業務の指定管理者の指定を受け、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

(1) 研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 417件 5,695人 / フリースペース利用件数338件 1,958人

(2) チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

(3) 印刷機等地域活動に必要な機器、機材の貸し出し



9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

(1) 相談件数

2,010件 (特例貸付含む)

(2) 新規貸し付け決定数

26件、10,074,000円

(3) 償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。



10 ボランティア活動振興事業

宮前区のボランティア活動の振興を図るため、相談、情報提供、連絡調整、啓発講座の開催など人材確保と育成に注力した。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 3回開催

(2) ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティア活動調整及び情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望46件、ボランティア依頼30件

(3) 「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまへの福祉」と一本化し、年4回発行した。ボランティアグループからの仲間募集の掲載依頼の他、地域で活躍しているボランティアグループの紹介、本会ボランティア活動振興センターで行ったボランティアイベント等を掲載し、区内のボランティア活動の啓発に努めた。

(4) 福祉教育事業の推進

- ①小中学校の福祉教育授業への協力
(ア)区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車いす等の貸出
(イ)講師の紹介
- ②関係施設・機関等の研修への協力
(ア)区内関係施設・機関の研修への車いす等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

相談依頼が多い傾聴ボランティアへ対応するため、傾聴入門講座を開催した。

13名が修了し、うち5名が既存の傾聴ボランティアグループに所属、即戦力として活動を開始した。

今年度初めて開催したおいしいコーヒーの淹れ方講座では、コーヒーをきっかけとして地域デビューを促し、修了者の一部は新規コミュニティカフェへの立ち上げに参加する方もいた。

昨年度に引き続き開催した一芸ボランティアフェスタでは、4団体1個人がそれぞれ趣味や特技を活かした芸を披露した。見学者は17名で、福祉施設関係者が多く、一芸ボランティアフェスタの演者に依頼をかけた方も多く、地域の福祉施設等への支援に繋がった。

また、当日の開催の様子を動画配信して周知することにも新たに取り組んだ。

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2025」の開催

- ①福祉の目でまちを点検！車いす介助体験【福祉マップ作り】に10名の参加があった。
- ②視覚障がい者へのお手伝い！声掛け誘導体験に3名の参加があった。
- ③Let's enjoy 公園清掃！きれいな公園を私たちの手でと称し、県立東高根森林公園の清掃活動に13名の参加があった。
- ④障がい者施設でボランティア！ボッチャを通じて利用者さんと交流に7名参加があった。

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループ・団体などが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口相談、受付業務を行い、231件保険加入があった。

1 1 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 1,263件（初回相談32件、継続相談1,231件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 164件（初回相談121件、継続相談43件）



1 2 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所の老人いこいの家（長寿ケアホーム）の管理・運営を行った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数（5館） 13回

(2) 管理人研修会

情報セキュリティ研修をオンラインで実施。

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数（5館） 40,987人



(4) 教養講座、レクリエーションの実施

教養講座実施回数、参加者数（5館） 延べ109回 1,534人
レクリエーション回数、参加者数（5館） 延べ 72回 1,198人

(5) ミニデイケア事業の開催状況（3ヶ所 平・白幡台・鷺ヶ峰）

参加人数 計 349人 ・ ボランティア数 計 587人

(6) 夜間・休日等施設開放事業（3ヶ所 平・白幡台・野川）

利用回数 98回 計 2,161人



1 3 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティア活動の啓発

宮前区防災フェア、宮前区総合防災訓練へ参加し、災害ボランティアセンターの普及啓発を行った。

(2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

防災に注力している「みやまえボランティア・当事者連絡会」について、当団体が行っている防災講座の企画・調整等の協力を行った。

災害救援バイク隊ペガサス宮前と情報交換を行い、有事の際の確認を行った。

災害ボランティアセンターの設置場所である宮前市民館・宮前区役所危機管理担当・宮前区ボランティア当事者連絡会と情報交換を行い、災害ボランティアセンターの具体的な運営方法などを話し合った。



1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力（再掲）

(2) 宮前区民生委員児童委員協議会への協力

(3) みやまえカフェ連絡会「まいCaféみ〜や」

役員会（4回）、全体会（3回）を開催し、全体会では研修と情報交換を行った。

(4) 関係団体への協力

1 5 その他

(1) 宮前区賀詞交換会の共催

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 宮前老人福祉センターとの連携など他部署の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施



川崎市多摩区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆



I 災害ボランティアセンターの周知と運営のための検討

令和7年度より新たに災害ボランティア担当を設置し、関係機関との連携のもと、発災時における災害ボランティアセンターの設置及び運営について検討を行った。

また、多摩区防災フェア及び川崎市総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの役割を地域住民に周知するとともに、本会として新たに設置した災害ボランティア担当者会議に出席し、関係機関との情報共有及び連携強化に努めたことにより、災害ボランティアセンターに関する理解の促進及び関係機関との連携強化を図った。



II こどもまんなか応援サポーター宣言を目指して

第6期地域福祉活動計画の2年目となる令和7年度は、令和8年度の「こどもまんなか応援サポーター宣言」に向け、具体的な事業実施を見据えた研修を行うとともに、人材養成について検討した。

このうち研修では、社会福祉法人厚生館福祉会が運営する「かわさきさくら児童家庭支援センター」の職員を講師に招き、現場での課題や支援の実際について理解を深めるとともに、参加者へアンケートを行い、多摩区社会福祉協議会（以下「区社協」）が取り組むことのできる事業や支援について意見を収集した。

これらの取組により、現場の実態を踏まえた課題認識の共有と、具体的な取組の検討を進め、令和8年度の宣言に向けた環境づくりを行った。



III 地域ネットワークの構築と助成金の活用

地域住民に区社協の活動を理解していただくため、広報啓発活動及び協賛会員の呼びかけを積極的に行ったことにより、新たに協賛会員（2法人）の加入があった。

また、福祉活動団体に助成金を交付し、継続的な地域福祉活動の展開を支援することを通じて、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らすことができる地域づくりに努めた。

これらの取組により、区内企業・法人とのつながりを広げるとともに、助成金の活用による地域福祉活動の活性化につなげた。



IV 次世代の福祉の担い手の育成

老人いこいの家全館において大学生や川崎市スマホ相談員（市内在住のデジタル推進委員*）による講師ボランティアの参加を得て、スマートフォン講座を開催し、大学生が地域課題に触れながら高齢者と直接関わるきっかけを作るとともに、事業の拡充に向けて、大学や高等学校等への働きかけを積極的に行った。

また、小学校からの福祉教育のプログラム相談への対応として、体験教材の提供や講師となる当事者の派遣を調整する一方で、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」）を協力者として紹介することにより、地域内の交流を図った。

これらの取組により、大学生や児童が地域住民と関わりながら学ぶ機会を広げ、次世代の福祉の担い手の育成につなげた。

*デジタル推進委員とは、デジタル庁から任命された、デジタル機器・サービスに不慣れな方等に対し、講習会等でデジタル機器・サービスの利用方法等について教える方をいう。

事業報告の内容

多摩区社会福祉協議会 事業費【69,028千円】

【サービス区分事業活動支出 62,410千円】

【共同募金配分金 6,618千円】

1 多摩区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会及び正副会長会議の運営

- ① 常任委員会 4回（6月2日、9月8日、12月（書面）、2月26日）
- ② 運営協議会 2回（6月5日、3月3日）
- ③ 正副会長会議 4回（5月14日、8月25日、11月12日、2月20日）



(2) 一般会員、賛助会員及び協賛会員の募集

- ① 会員 115件（前年 120件）
- ② 賛助会員 2,363件（前年 2,471件）
- ③ 協賛会員 2件（前年 0件）

(3) 苦情解決への対応

苦情受付件数 0件

2 調査・研究事業

(1) こどもまんなか社会に向けた研修

1回（2月28日）

(2) 種別会議の開催

- ① 5種（地区社協）3回（9月19日、1月21日、3月23日）
- ② 6種（社会福祉施設）1回（4月15日）
- ③ 9種（当事者団体）1回（4月14日）
- ④ 10種（ボランティアグループ）1回（4月14日）
- ⑤ 11種（社会福祉に関係する組織・団体、機関）1回（4月14日）



3 企画・広報事業

(1) 広報紙「区社協だより多摩」の発行

発行回数 3回（5月、9月、1月）

(2) ホームページ、フェイスブックの運営

掲載回数 36回

(3) 多摩ふれあいまつり参加による啓発活動

6月15日 ボランティア相談会「たまぼらひろば」の開催（相談者3名）及びパネル展示による広報

(4) たまたま子育てまつり参加による啓発活動

9月14日 出張おしゃべりサロン「いちにのさん！」 参加親子約50組

(5) 多摩区民祭参加による啓発活動

10月18日開催 ブース来場者 約500名



(6) 第18回多摩区社会福祉大会の開催による啓発活動

3月6日 来場者 705名



4 地域福祉活動事業

(1) 総務部及び福祉部を中心に実施している「福祉でつながる地元交流会及びSOSかわさき事業多摩区連携ネットワーク会議」を活用した地区社協と福祉施設の連携強化

1回(2月3日) 参加 52名

(地区民児協 24名、社会福祉施設 19名、行政他9名)

(2) 地区社協活動の支援「地区社会福祉協議会会長連絡協議会」の設置及び開催

3回 ※5種会員会議と同様

(3) おしゃべりサロン「いちにのさん!」の開催

12回(基本毎月第4水曜) 参加者合計 299名

(4) 車椅子の貸出

貸出件数 178件(前年 166件)

5 団体等助成事業

(1) 地区社協への助成

- ① 育成交付金及び福祉活動費 2,143,000円
- ② 賛助会費を原資とした助成金 2,004,502円



(2) 寄付金を財源とした当事者団体、ボランティアグループへの助成

- ① 活動助成金
 - ア 第9種会員(障害者等当事者団体) 10件 140,000円
 - イ 第10種会員(ボランティアグループ) 12件 234,000円
- ② 行事助成金 4件 66,200円

(3) 高齢者ふれあい活動支援団体への助成

- ① ふれあい活動支援事業助成金 9件 916,760円
- ② 高齢者ふれあい活動実施団体を対象とした交流会 1回(3月26日) 参加6団体

6 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

- ① 赤い羽根募金(一般募金)実績額 11,001,777円
- ② 年末たすけあい募金実績額 6,408,937円



(2) 共同募金配分事業の実施

- ① 一般募金配分金額 1,324,542円
赤い羽根一般募金の配分金を財源とした事業の実施
 - ア 母親クラブ助成金 3件 15,000円
 - イ 社会を明るくする運動 1件 60,000円
 - ウ 多摩ふれあいまつり 1件 200,000円
 - エ たまたま子育てまつり 1件 140,000円
- ② 年末たすけあい募金配分金額 7,049,587円

- 年末たすけあい募金の配分金を財源とした事業の実施
- ア 区内在住の福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金の交付
514世帯 2,570,000円（1世帯5,000円）
- イ 福祉車両貸出事業の実施
貸出件数 27件
- ウ 子育てグループ交流会の実施
1回（10月20日） 参加3団体（親子22組）
- エ 地域福祉貢献事業の起業グループへの助成
申請 0件



7 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室、ボランティアコーナーの貸出

- | | | | | |
|--------------|------|-----------|------|---------|
| ① 研修室 | 396件 | 6,067名（前年 | 402件 | 6,180名） |
| ② ボランティアコーナー | 96件 | 379名（前年 | 107件 | 475名） |

(2) 印刷機等の機材、機器の貸出

印刷機（印刷室）貸出314件（前年323件）

8 生活福祉資金貸付事業



(1) 相談・貸付件数

相談・問合せ件数 1,905件（前年2,001件）

(2) 生活福祉資金貸付調査委員会の開催

1回（6月12日）

(3) 申請件数

46件（前年29件）

(4) 貸付決定件数

40件（前年28件）

9 ボランティア活動振興事業



(1) 多摩区ボランティアセンター運営委員会の開催

4回（4月30日、7月11日、10月10日、1月9日）

(2) ボランティア相談会「たまばらひろば」の開催

- ① 5回（6月15日、7月8日、9月14日、11月4日、3月10日）

② 相談件数

ア ボランティア依頼（ボランティアを頼みたい） 59件（昨年度 56件）

イ ボランティア希望（ボランティアをやりたい） 53件（昨年度 44件）

* 電話や来所による相談、「たまばらひろば」で受付けた相談件数含む

(3) ボランティア情報誌「たまばら」の発行

4回（発行月5月、8月、11月、2月）

(4) 大学生と高齢者の交流事業の実施

大学生が高齢者にスマートフォンの操作を教える講座の開催

6回（10月17日、11月6日、12月9日、2月4日、2月27日、3月18日）

(5) 各種ボランティア講座の開催

7回 受講者 26名（11月7日、11月13日、11月15日、11月27日、11月17日、11月26日、12月5日、体験日含む。）

(6) チャレンジボランティア2025の開催

3回 参加者 23名（7月23日、7月27日、8月4日）

(7) 福祉教育の推進

① 福祉教育推進委員会

2回（4月21日、2月17日）

② 福祉教育セミナーグループ会議

4回（4月21日、6月30日、10月6日、1月26日）

ア 福祉教育地域セミナー（生田地区社会福祉協議会を対象）

1回（6月13日） 参加 48名

イ 手話体験講座

1回（8月23日） 参加 36名

ウ 福祉教育地域セミナー（ひばり保育園見学会）

1回（10月6日） 参加 13名

③ 福祉教育サポートグループ会議

5回（4月21日、5月28日、7月15日、10月8日、1月27日）

ア 区内小・中学校、高校の教職員と福祉学習支援者との交流会の開催

1回（8月4日）

イ 福祉教育に関する相談支援

（ア）相談件数 8件（うち小学校8件）

（イ）対応件数 15件（相談1件について複数対応あり）

（ウ）福祉教育用福祉用具の貸出 38件

10 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業

① 相談件数（延べ） 1,255件（前年 1,537件）

② 支援件数（延べ） 1,208件（前年 1,491件）

(2) 成年後見制度利用促進事業

① 相談件数（延べ） 229件（前年 284件）

② 支援件数（延べ） 191件（前年 204件）

③ 出張講座 3件（前年 3件）



11 老人いこいの家運営事業

(1) 区内7館（登戸、長尾、菅、錦ヶ丘、枡形、中野島、南菅）老人いこいの家の管理運営

① 団体利用者数 42,189名（前年39,688名）

② 利用団体数 4,269団体（前年 4,145団体）

③ 個人利用者数 9,326名（前年 8,956名）

(2) いこいの家公開講座の開催

61回

(3) 多世代交流事業の実施



45回

(4) ふくし寄合処たま（登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘）の開催
53回

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催
11回

(6) 管理人研修の開催
3回

(7) 登戸、菅、中野島老人いこいの家でのミニデイケアサービス事業の実施

- ① 登戸いこいの家 10回（利用人数 64名）
- ② 菅いこいの家 12回（利用人数 111名）
- ③ 中野島いこいの家 11回（利用人数 84名）

12 災害活動関連事業

災害ボランティアセンターの役割や具体的活動についての検討
多摩区防災フェアへの参加（2月11日）



13 総合相談事業

相談件数 469件（前年162件）

(1) ICT技術の活用等による総合相談の充実

キントーン*を活用した「ふくし相談」の効率的な情報共有の検討及び試行

* キントーンはプログラミングの知識がなくてもノーコードとAIで、業務のシステム化や効率化を実現するアプリがつけれるクラウドサービスです。（サイボウズ社HPより）



(2) 総合相談のための職員のCSW技術の向上

担当者会議への出席 4回（7月29日、11月19日、12月23日、3月3日）

14 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

3回（5月20日、書面、3月23日）



(2) 多摩区民生委員児童委員協議会への協力支援

- ① 常任理事会 11回（毎月第2木曜、8月は開催せず）
- ② 理事会 2回（5月8日、3月25日）
- ③ 研修会 全体研修会1回（1月29日）及び理事研修会1回（11月6日）
- ④ 主任児童委員部会 5回（4月、6月、9月、12月、2月）
- ⑤ 主任児童委員部会委員研修会 1回（11月10日）
- ⑥ 多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつり及び多摩区民祭への参加

(3) たまわかくさ（多摩区当事者・ボランティア連絡会）への協力支援

- ① 運営委員会 4回（4月22日、7月29日、12月9日、3月17日）
- ② 総会 1回（4月26日）
- ③ 「たまわかくさだより」の発行 2回（8月、12月）
- ④ 研修会 1回（9月24日）

- ⑤ 勉強会 2回（11月22日、3月7日）



15 その他

（1）他部署に対する協力を通じた地域福祉の推進

福祉でつながる地元交流会及びSOSかわさき事業多摩区連携ネットワーク会議（再掲）

1回（2月3日）参加 52名

（2）多摩老人福祉センターとの連携による高齢者福祉の推進

出張ふくし寄合処 1回（1月29日）

（3）実習生の受け入れによる福祉人材養成への貢献

① 帝京平成大学 1名

② 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 36名

（4）寄付金品の受け入れと適正な事業配分の実施

① 金品 7件 709,555円

② 物品 0件

川崎市麻生区社会福祉協議会

◆ 重点事業 ◆

1 “他人ごと” から “自分ごと” そして、“みんなごと” へ ～福祉がより身近になる広報・啓発



広報紙「ほほえみ」を発行し、タウンニュース紙の一面掲載や区内新聞折り込みの活用、また公式LINEアカウントやInstagramの活用等、広報方法の工夫により区民への福祉情報の発信に努めました。また、事業委員会が実施した講演会や研修、交流会等においても区社協事業を周知しました。

麻生区役所との共催事業として「第36回あさお福祉まつり」を実施しました。支え合いの地域づくりである「地域包括ケアシステム」構築の推進に向け、麻生区の地域福祉活動を多くの区民に周知し、福祉や社協への理解を広めました。

2 住民の困りごとを受け止め、 予防と解決に向けた小地域福祉活動の支援



地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協や関係機関等との協働事業を支援しました。また、地区社協と連携し、社協事業や小地域福祉活動の財源である賛助会員増強や共同募金運動に取り組みました。

事業委員会では、地域を支える活動者の学習や交流会等を開催し、参加者の積極的な情報・意見交換のもと、お互いの活動への理解を深める機会になりました。

3 「共に生きる」地域づくり・場づくり ～誰もが参加できるボランティア活動の推進



区内のボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽にボランティア活動に参加できる機会づくりの支援に努めました。ボランティア講座では、傾聴ボランティアに関する相談が増加していることから、傾聴ボランティアグループと協働し「傾聴ボランティア講座」を企画実施しました。終了後は傾聴ボランティアとしての活動開始につながりました。

福祉教育推進では、当事者団体やボランティアグループに協力いただき、講師派遣や体験の受入れ調整等、学校における福祉教育を支援しました。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【72,339千円】

【サービス区分事業活動支出 67,893千円】

【共同募金配分金 4,446千円】

1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会（会員意見交換会）の開催

ア 常任委員会の開催 4回

(6月2日、9月2日、10月23日、2月25日)

イ 正副会長会議の開催 2回

(5月29日、2月16日)

ウ 運営協議会（会員意見交換会）の開催

今年度は書面報告（令和7年度事業計画・予算、令和6年度事業報告・決算）により、会員からの意見をいただきました。



(2) 賛助会員募集

2月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員の増強に努めました。

賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和7年度募集	賛助会員数	金額
実績合計	1,886名	4,703,550円
麻生東地区	1,129名	2,132,850円
柿生地区	757名	2,570,700円

(3) 寄託金

令和7年度一般寄附 556,732円（寄託品で決算上金銭換算したものを除く）

(4) 寄託品

令和7年度寄託品 28,176円

(5) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

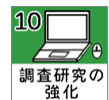
ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にかかわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相談機関と協力連携して対応しました。

総合相談（ふくし相談） 相談件数 481件

2 調査・研究事業

(1) 第6期川崎市地域福祉活動計画の推進（市区社協一体策定）

「第6期川崎市地域福祉活動計画」〔計画期間：令和6（2024）年度～令和8（2026）年度〕に基づき、常任委員会において本会における重点的な取組、各事業の進捗状況について報告し、課題等の把握を行いました。



3 研修事業

(1) 区社協会員研修の開催

区社協会員研修は開催時期や会場確保の不調により単独での実施には至りませんでした。区社協会員に各事業委員会が開催する講演会や懇談会等に参加いただき、会員間や多団体との地域課題共有や情報交換等を行いました。

(2) 区社協職員研修の実施

各職員の職制や担当業務に応じた本会職員研修や外部研修等に参加しました。



4 企画・広報事業

(1) 第36回あさお福祉まつり事業

区内の福祉活動に関わるボランティア・当事者・施設・団体の活動を広く区民に周知し、区民の福祉への理解と関心を高めることを目的に、第36回あさお福祉まつりを麻生区との共催事業として開催しました。地域の「協働」と「参画」を基本とし、第36回あさお福祉まつり実行委員会を組織し、実行委員会と参加団体が主体となる運営を目指して、事前準備から当日の運営までを具体的に役割分担し、実施しました。

参加団体数：66団体（前年度 63団体）

来場者数：約3,800人（前年度 約5,600人）



(2) 広報啓発委員会の開催

ア 広報啓発委員会 2回（7月25日、1月14日）

イ 広報紙「ほほえみ」の発行

年間3回の発行を再開し、87号は業者委託による区内ポスティング、88号はタウンニュースの紙面に掲載、89号は新聞各社の新聞折り込み配布にて発行しました。

ウ ホームページ、SNSの管理運営

区社協ホームページ、公式LINEアカウントやInstagramの活用により、区民に向けて、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

また、ホームページのデザインを全市の統一（リニューアル）し、ホームページ内の情報を整理しました。

エ 「親子・青少年講演会」について

子どもや若い世代に向けた福祉を啓発するイベントの企画・運営を通して、社会福祉協議会の周知を広めることを目的に開催しました。

オ 「福祉啓発映画会」について

隔年での開催のため、実施しませんでした。

カ 麻生区社会福祉協議会紹介パネルの作成

麻生区社会福祉協議会についての紹介パネルを作成し、あさお福祉まつり、麻生区総合防災訓練、親子・青少年講演会にて展示し広報を行いました。

キ 公式キャラクターを通した展開について

区社協広報紙やホームページ、各種事業開催時にキューちゃんを掲載しPRしました。

また、キューちゃんグッズを福祉まつり内で行われたアンケートの景品にしました。

(3) 地域のイベントへの参加協力

あさお区民まつり 10月12日

5 地域福祉活動事業

(1) 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。



(2) 関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

(3) 車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

- ア 車椅子の貸出(件数) 259件
- イ 福祉器具の貸出(件数) 520件

(4) 移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。

本事業は川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

- ア 賛助会員数 8名
- イ 運転ボランティア登録数 5名
- ウ 利用件数 53件
- エ 運営委員会の開催 2回(7月1日、令和8年2月18日)
- オ 運転ボランティア定例会の開催 5回(5月16日、9月19日、10月17日、令和8年1月16日、3月13日)
- カ 広報啓発活動の充実
(福祉まつりでの車両展示・体験、麻生警察署内にて運転ボランティア募集チラシ配架)
- キ 移送サービス検討ワーキンググループ会議 4回
(9月3日、10月17日、11月27日、令和8年1月14日)

6 団体等助成事業

(1) 地域福祉活動への助成

- 麻生東地区社協 1,577,995円
- 柿生地区社協 2,064,490円

(2) ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

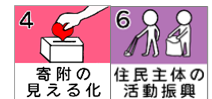
24団体(計693,000円)

(3) 高齢者ふれあい活動支援事業への助成 10団体(1,500,000円)

(4) 社会を明るくする運動への助成 50,000円

(5) ボランティア・当事者連絡会への助成 190,000円

(6) 麻生区交通安全対策協議会への助成 30,000円



7 委員会活動事業

(1) 在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地域力の向上を目指して事業を実施しました。

- ア 在宅福祉サービス委員会の開催 4回（7月15日、9月26日、12月9日、3月24日）
- イ 委員会研修「こどもの居場所について」 1回（10月22日）
- ウ 地域でともに生きるを考える懇談会「ひきこもりについて」 1回（令和8年2月24日）
- エ 地域の関係づくりの大切さを考える講演会「みんなで考えよう！！こどもの居場所」 1回（令和8年3月10日）

(2) 広報啓発事業（再掲・4（2））

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

(3) 子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

- ア 子育て支援委員会の開催 4回（7月15日、9月9日、11月13日、3月11日）
- イ 子育て関連グループ交流会の開催 1回（9月29日）
- ウ ペアレントトレーニング「見直してみよう～うちの子って…～」 4回
（10月17日、10月31日、11月14日、11月28日）
- エ 子育て支援講演会の開催 1回（2月17日）
- オ ペアレントトレーニング参加者交流会
「子どものインターネットやスマホゲームへの依存について」 1回（2月24日）
- カ あさお子育てフェスタへの参加（パネル展示） 1回（3月20日）

(4) ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。（詳細P8「11 ボランティア活動振興事業」）

8 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

(2) 共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 362世帯 配分実績額 1,448,000円

イ あさおおもちゃとしょかん運営事業

障害のある子もない子も、ともにおもちゃを通じて遊び、豊かに育つことを目的に運営を行いました。

開館回数 35回

利用者数 683人

運営ボランティア数 延べ245人

次のウ～コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

- ウ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）（再掲・6（2））
- エ 助成事業（再掲・6（1））



小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ 260,000円、柿生地区社協へ440,000円）

- オ 区社協運営事業（再掲・1）
- カ 在宅福祉サービス事業（再掲・7（1））
- キ ボランティア活動振興事業（再掲・11）
- ク 広報啓発事業（再掲・4（2））
- ケ 子育て支援事業（再掲・7（3））
- コ 移送サービス事業（再掲・5（4））



9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

（1）研修室、フリースペースの貸出

- ア 大研修室利用状況 527件（7,172人） ※前年度 539件（7,199人）
- イ 小研修室利用状況 207件（1,329人） ※前年度 233件（1,492人）
- ウ フリースペース利用状況 629件（2,204人） ※前年度 640件（2,369人）

（2）フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出（件数）

60件（5団体）



10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

- （1）相談件数 1,385件
- （2）新規相談件数 172件
- （3）貸付申請件数 22件
- （4）事務管理終了 12件

償還完了	総合支援資金【2】小口資金【5】福祉資金【1】 教育支援資金【3】不動産担保型【1】	12件
------	---	-----



11 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

（1）ボランティア活動振興センター運営委員会の開催 4回

（6月（書面開催）、9月5日、11月5日、1月27日）

（2）学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2025」

（福祉部・各区社協等との共催事業） 8回

- ア 高齢者施設でボランティア！音楽を通じて高齢者と交流しよう！（8月1日）
- イ 地域子育て支援センターちよがおかで乳幼児と交流しよう！①（7月22日）
- ウ 地域子育て支援センターちよがおかで乳幼児と交流しよう！②（7月23日）
- エ 地域子育て支援センターちよがおかで乳幼児と交流しよう！③（7月24日）
- オ 「にんちしょう」ってなあに？！～記憶のツボゲームとロバ君倶楽部～（8月12日）
- カ 「ロバの日」に高齢者のお買い物ツアーに同行しよう！（8月13日）
- キ 保育園でボランティアをしよう！（8月6日）
- ク 作業所でハーブティー（レモングラス）を収穫しよう！（7月29日）

（3）ボランティア講座の開催

今年度は、ボランティア相談の中で、傾聴依頼の増加と、一方で、傾聴活動者の減少を受け、担い手を増やすために「傾聴ボランティア講座」を実施しました。

(4) 『みんなでつくる！「あさお農福サロンプログジェクト（仮称）」』の実施

麻生区の地域資源でもある農業に触れる体験を通して、「食」の大切さや「地域福祉について理解を深めるとともに、地域の居場所づくりに取り組むプロジェクトについては設置に至りませんでした。

(5) ボランティア専門講座（田園調布学園大学主催）への協力

田園調布学園大学が開催するボランティア専門講座の広報について、要請があったため協力いたしました。

(6) ボランティアイベントの企画・実施

11月9日（土）に行われた「あさお福祉まつり」において、相談窓口ブースに参画し、来場者からの相談を受けるとともに、各機関との連携を深めました。

(7) 災害ボランティアについての取り組みの推進

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催 1回（3月4日）

麻生区役所危機管理担当、地域振興課、生涯学習支援課、本部ボランティア活動振興センター、麻生区社協で、災害ボランティアセンターの機能や役割、近年の災害におけるボランティアセンターの活動事例について共有し、さらに連携の在り方について協議しました。また、各機関が実施している災害関連の事業について情報交換を行いました。

イ 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民に向けて普及啓発しました。

日時：令和7年12月6日（土）10時～15時

場所：新百合ヶ丘駅南口ペDESTリアンデッキ

(8) 地域住民・ボランティア団体等への情報提供や支援、連携強化

ボランティア活動者やボランティア団体から寄せられた相談に対して、随時情報提供を行いました。ボランティアの募集にあたっては、区内ボランティア団体と連携し、スムーズなボランティア受入につながるよう支援しました。

(9) ボランティアコーディネート委員会の開催

（6月3日、7月1日、9月2日、10月7日、11月14日、12月2日、1月13日、3月3日）

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

(10) ボランティア相談コーナーの開設 11回（毎月第3火曜日）

(11) ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和7年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

ア ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） 48件

イ ボランティア活動希望（ボランティアしたい） 53件

(12) ボランティア受入担当者交流会の開催 1回（2月17日）

ボランティアを受け入れる福祉施設の担当者に向けて、ボランティアの受入方法や関わり方などのボランティアコーディネートをする上で必要な知識を、事例などを通じて具体的に学べる機会とすることを目的に開催しました。

(13) ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

ボランティア受入担当者交流会の参加申込書にアンケートを作り、ボランティアの受入状況などの現状を把握する取組を行いました。

(14) 広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行 2回（7月、3月）

広報紙ほほえみの紙面を活用して発行しました。

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行 6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月）

今年度は計6回発行し、ボランティアに関連する情報を掲載することで、ボランティア活動の振興に努めました。

(15) 福祉教育推進委員会の開催 3回（6月10日、8月6日、2月25日）

区内における誰もが住みよいまちづくり推進の一環として、地域全体での福祉学習の取り組みを支援するため、福祉教育の広報啓発等を協議しました。

(16) 福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整

ア 申込件数 24件（延べ件数）

内訳：小学校18件、中学校1件、高校1件、福祉施設ほか4件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 1,994人（延べ人数）

イ 内容

障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

①小学校・中学校・高校の先生との福祉教育に関する懇談会 1回（8月26日）

②福祉教育推進委員会委員研修 1回（2月25日）

③福祉教育に関わる広報啓発

より効果的な広報啓発について協議しました。

(17) 相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

また、4月18日に相談窓口・検索サイト担当者会議に参加し、令和7年度の取り組みについて協議しました。



12 あんしんセンター事業

麻生区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施及び成年後見制度の利用に向けた相談・支援を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業の実施

日常生活自立支援事業においては、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス及び書類等預かりサービスを実施しました。福祉サービスの利用料の支払い、生活費の出金など金銭の出し入れの手続き、公共料金や医療費等の支払い手続きを行いました。

ア 日常生活自立支援事業にかかわる相談

相談件数 1194件（初回相談39件、継続相談1155件）

イ サービス契約者数（令和8年3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス 24名

書類等預かりサービス 5名

(2) 成年後見制度の利用推進

川崎市あんしんセンターと連携して、成年後見制度利用促進のため、広報や相談・支援を実施しました。

成年後見制度の概要や申立て手続きに関わる相談

相談件数 1260件（初回相談153件、継続相談1107件）

(3) 関係機関との連携及び連絡調整

行政機関や地域包括支援センター、地域相談支援センターが実施するカンファレンスや麻生区高齢者支援カンファレンス（年11回開催）に出席し、権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの構築の推進に努めました。



13 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

指定管理事業

(1) 老人いこいの家の運営委員会の開催

ア 王禅寺老人いこいの家	2回（7月9日、2月16日）
イ 片平老人いこいの家	2回（6月20日、1月21日）
ウ 千代ヶ丘老人いこいの家	2回（7月14日、3月13日）
エ 白山老人いこいの家	2回（6月17日、1月19日）
オ 麻生老人いこいの家	4回（6月17日、7月11日、10月24日、3月5日）
カ 岡上老人いこいの家	2回（7月3日、2月18日）
キ 百合丘老人いこいの家	3回（6月17日、7月11日、1月13日）

(2) 令和7年度利用状況

開所日数合計2,044日 利用人数合計65,565人

(3) 教養の向上に関する事業

公開講座・地域公開講座 開催回数計110回 参加人数計1,450人

(4) レクリエーションに関する事業

開催回数計140回 参加人数計4,938人

(5) 健康づくり・介護予防に関する事業

区役所や地域包括支援センターが実施する事業に協力しました。

(6) 高齢者の社会参加を促し、高齢者の活躍の場につながる取り組みを推進

ボランティア活動振興センター事業と連携し、高齢者がボランティアに関心を持っていたけるよう、関連リーフレットや活動紹介冊子等を各館に配架・設置しました。

(7) 消防訓練・避難訓練の実施

実施回数計9回 参加者数計197人

(8) 老人いこいの家管理人研修会の開催

ア 普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生およびAED）

対面 3回（7月7日、2月9日、2月14日） 14名

	オンライン	1回（9月1日）	8名	
イ	管理人研修			
	情報セキュリティ研修	1回（11月30日）	22名	※オンライン
	標的型攻撃メール訓練	2回（9月30日、1月19日）	22名	※オンライン
	防火管理者講習	2回（6月28日、7月30日）	2名	
	管理人研修	3回（1月15日、1月22日、1月26日）	22名	※オンライン
ウ	いこいの家代替臨時職員研修	1回（2月15日）	25名	※書面開催



1 4 災害活動関連事業

平成29年度の川崎市総合防災訓練（麻生区開催）をきっかけに、行政、市・区社協をメンバーに麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討を重ねました。令和2年度からは、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」としてボランティア活動振興センター内に設置し、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定することなく麻生区の災害ボランティアについて、麻生区総合防災訓練での広報啓発に合わせて、広く協議・検討することとなりました。

（1）災害ボランティアについての取り組みの推進

- ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催（再掲・11（7））
- イ 川崎市総合防災訓練（幸区会場）への参加
福祉部・幸区社協が主催の「災害ボランティアセンター運営訓練」に参加しました。
また、事前研修会にも参加しました。
事前研修会（8月31日）
防災訓練（8月22日）
- ウ 麻生区総合防災訓練への参加（再掲・11（7））

（2）災害対策・事業関連

事業継続計画を定期的に見直し、更新しました。

（3）災害発生時に必要な物品等の整備

アルファ米等、災害備蓄食品の保管・管理を行いました。

1 5 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

（1）神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力

（2）麻生区民生委員児童委員協議会

（3）関係団体の事務協力

（4）麻生区賀詞交歓会の共催

1 6 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。

また、麻生区役所の関係部署と定例的な情報共有を図り、意見交換会を行う等、職員間の相互理解（顔の見える関係性）を深めました。これを基盤として、類似事業における協働体制の構築・強化に着手しています。